2012年度 防災教育チャレンジプラン 活動報告会

Disaster Management Education Challenge Plan Competition

2012年度 防災教育チャレンジプラン 成果発表

2013年度 防災教育チャレンジプラン 決定・発表

特別枠テーマ
変動する大地と向き合う次世代を育てるために

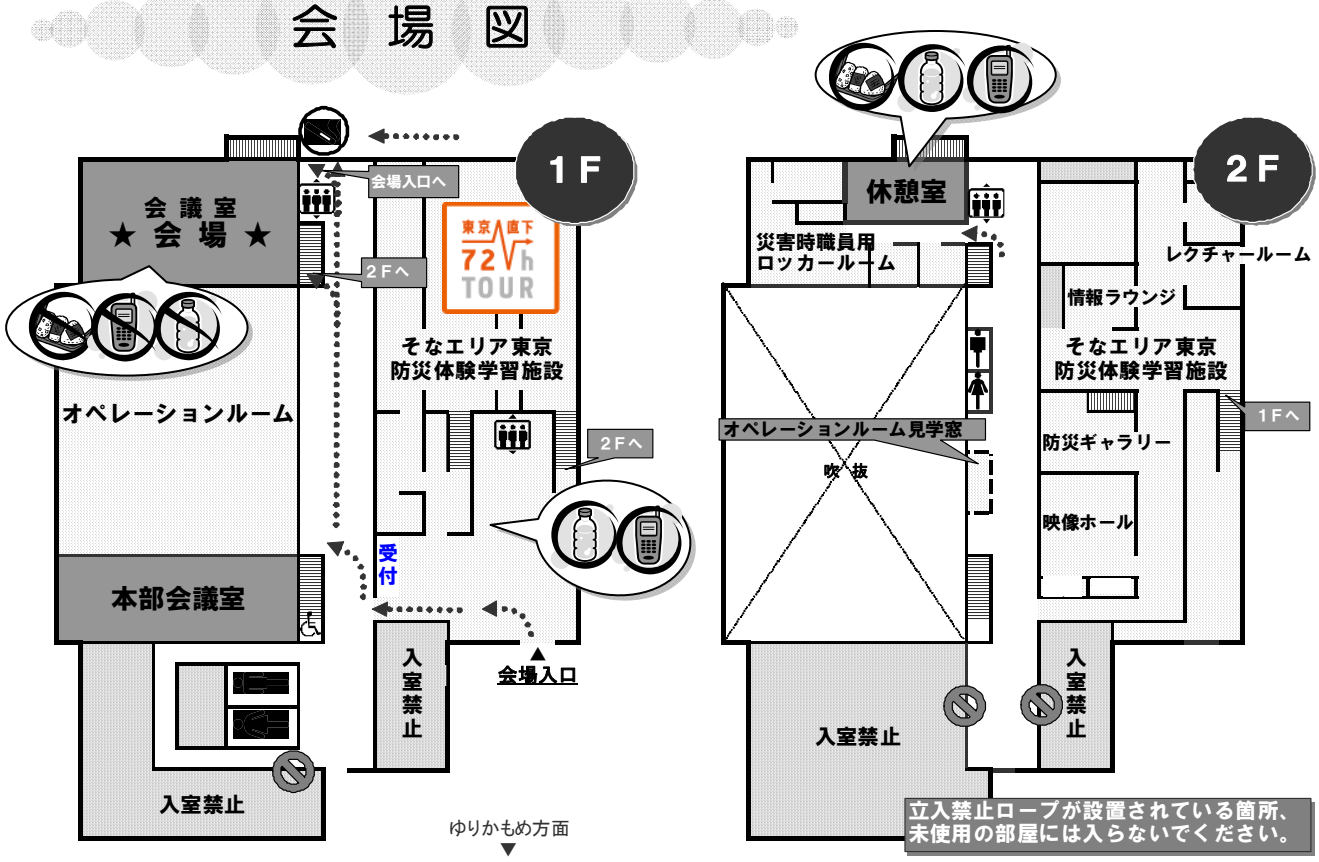
日　時：2013年2月9(土)10:00～17:30
会　場：有明の丘基幹的広域防災拠点施設(東京・有明)

www.bosai-study.net

主催：防災教育チャレンジプラン実行委員会・内閣府（防災担当）
後援：消防庁・文部科学省・国土交通省・全国知事会・全国市長会・全国町村会・日本赤十字社・全国都道府県教育委員会連合会・日本ＰＴＡ全国協議会

「防災教育チャレンジプランは、(財)河川環境管理財団の河川整備基金の助成を受けています」

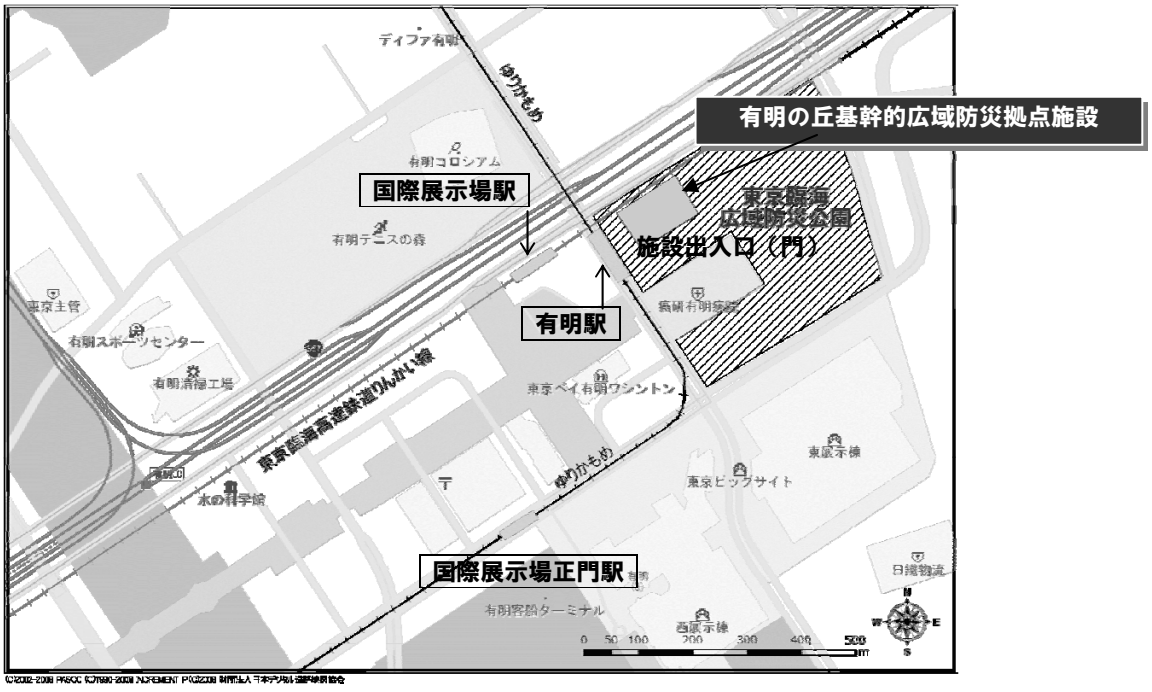
会　場　図



■館内図

※　報告会会場は、飲食及び携帯電話の通話をご遠慮ください。
※　2F休憩室は昼休みのみ開放です。喫煙所は、一旦会場をでて外から周ってください。
※　施設内の機器には、お手を触れないでください。
※　未使用の部屋には立ち入らないでください。

■会場図



会場利用案内

■ **会場座席**
・「会場図」に従い、所定のエリアにご着席ください。

■ **施設利用にあたっての注意**
・喫煙は、指定の場所以外は《　禁煙　》です。
・携帯電話は、電源オフまたはマナーモードに設定し、会場内での通話はご遠慮ください。
・ゴミは、各自の責任ですべてお持ち帰りください。
・立入禁止ロープが設置されている箇所、未使用の部屋には入らないでください。
・施設常設の機器等については、お手を触れないでください。

■ **そなエリア施設見学について**
・以下の施設を昼休み、休憩時間に各自で見学可能となります。
①そなエリア 1F 災害体験ゾーン（所要時間約 30 分）
ニンテンドーDS から出題されるクイズを解きながら首都直下地震の発災から避難までの一連の流れを体験できる「東京直下 72h ツアー」
②そなエリア 2F 防災学習ゾーン（所要時間約 30 分）
首都直下地震をわかりやすく紹介するミニシアター、PC による防災クイズ、防災学習映像のライブラリー、世界の防災用品や防災ゲームの展示体験コーナー。映像ホールではアニメ「東京マグニチュード 8.0～東京直下 72h～」（約 20 分）を上映

■ **発表・講演等の記録について**
・活動報告会の記録のため、事務局側にて、音声の録音、ビデオ撮影、写真撮影を行います。また、これら資料をデータベース化し、防災教育チャレンジプラン関係する媒体（ホームページ、パンフレット、報告書等）または関係者に供しますので、ご了承ください。

■ **ネームプレートについて**
・受付でお受け取りになったネームプレートは、首からお提げください。
・昼食時等の外出の場合、入館時には必ずネームプレートをご提示ください。
・お帰り時は、受付常設のネームプレート回収ボックスに、ご投函ください。

《発表団体対象》

■ **展示物について**
・展示物掲示～配置～撤去及び回収は、出演団体各位の責任で行ってください。
・施設の床、壁面、備品等を汚したり、傷をつけたりしないよう、ご注意ください。

■ **発表方法について**
・事前にご提出のスライドデータに基づき、説明を行っていただきます。当日のデータ差し替えは、一切できません。
・発表時間は事前にお知らせしたとおりです。時間の経過は、ベルでお知らせしますので、**時間厳守**でお願いします。
・各部の発表順が２番目以降の発表者は、ひとつ前の団体の説明が始まるのと同時に、各自で待機席まで移動していただき、ご着席ください。

避難誘導の御案内

災害発生時には、当会場は政府の合同現地対策本部が設置される施設となります。
首都圏を中心とする災害発生時、次のとおりにお願いします。

1. 待　　機
避難指示があるまで、施設内で待機してください。
2. 展示物等の撤収・避難指示
内閣府より事務局へ避難指示が入ります。事務局の指示にしたがってください。

防災教育チャレンジプランとは？

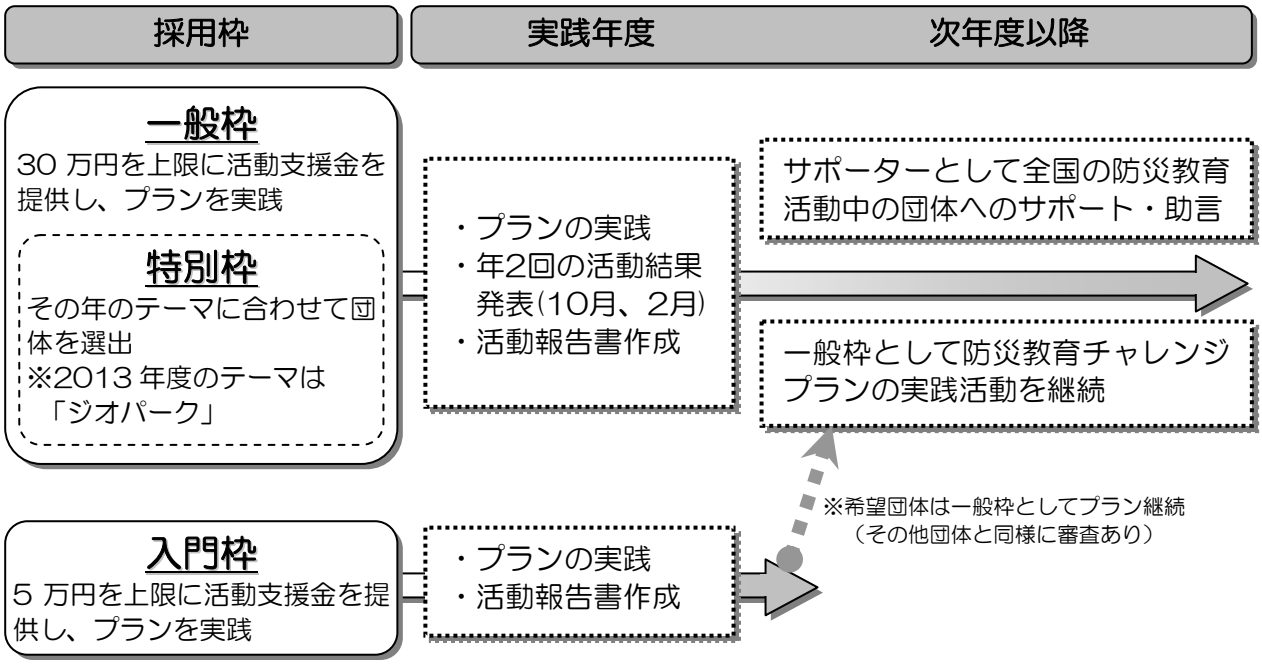
■　防災教育チャレンジプランの目的

国内外で大規模な災害が起きている昨今、またいつ災害がやってくるかわかりません。いつやってくるかわからない災害に備え大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害があった時すぐに立ち直る力を一人一人が身につけるため、全国の地域や学校で防災教育を推進するためのプランです。

全国各地の防災教育への意欲をもつ団体・学校・個人等に対し、より充実した防災教育のプランを募集し、「防災教育チャレンジプラン」として選出した上で、その実践への支援を行います。

１年間の実践の後、その実践例や支援した取り組みの内容を活動報告会を通じて広く公開・共有するとともに優れた実践の表彰を行うことで、全国の防災教育に取り組む団体・学校・個人やそのプランに光をあて、各地域で自律的に防災教育に取り組むことのできる環境づくりを目指します。

■　防災教育チャレンジプラン実践団体の構成



■ 入門枠(はじめの一歩)とは

３月11日の東日本大震災をきっかけに、防災教育への興味・関心が高まった方、防災育を実施したくなった方も多くおられると思います。そこで防災教育チャレンジプランでは「これまで防災教育をやったことがなくてよくわからない」「やりたいけれどもいきなり計画案を作って応募することは難しい」という団体に対して、入門枠（はじめの一歩）を用意しました。

入門枠（はじめの一歩）に採択されると、まずは１年間にわたってチャレンジプランで既に実施された防災教育プログラムを学び・実践しながら、次年度のチャレンジプランに応募するための計画を作成します。計画が採択されると、次年度は一般のチャレンジプラン実践団体として活動を行います。

なお、入門枠（はじめの一歩）は、一般枠の実践団体応募と比べると、活動費の支援は上限５万円ですが、応募書類などが簡略化されており、やる気があれば「誰でも」「気軽に」応募できるものとなっています。ぜひ、奮ってご応募ください。

■ 「特別枠」ジオパークとは

2013年度は国内でジオパーク活動をしている場所で行われている実践活動であることを条件に特別枠実践団体の募集を行いました。(2012年度の特別枠はなし)

ジオパークとは、地球に関わる様々な自然遺産を保護し、研究に活用するとともに、自然と人間との関わりを理解する場所として整備し、科学教育や防災教育の場として、また新たな観光資源として地域の振興に活かす場所とそこでの取組のことです。

2013年度は下記の団体が特別枠として採用されました。

『伊豆半島ジオパーク推進協議会(静岡県伊東市)』

実行委員の紹介

委員長

林　春男	京都大学防災研究所巨大災害研究センター 教授
市川　啓一	株式会社レスキューナウ危機管理研究所 代表取締役
井上　浩一	防災ネットワークプラン 代表
鍵屋　　一	板橋区 福祉部長
木村　玲欧	兵庫県立大学 環境人間学部 准教授
国崎　信江	株式会社危機管理教育研究所 代表
栗田　暢之	特定非営利活動法人レスキューストックヤード 代表理事
齊藤　清一	特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク 事務局長
澤野　次郎	災害救援ボランティア推進委員会 委員長
篠田　貴司	新島村立式根島中学校 教諭
諏訪　清二	兵庫県立舞子高等学校環境防災科 科長
田村　　拓	ＳＣＳＫ株式会社 執行役員
中川　和之	株式会社時事通信社 山形支局長
平田　　直	東京大学地震研究所地震予知研究センター センター長･教授
福和　伸夫	名古屋大学 減災連携研究センター センター長・教授
舩木　伸江	神戸学院大学人文学部人文学科 准教授
松尾　知純	防災ゲート・パートナーズ 代表
南島　正重	東京都立両国高等学校・附属中学校 主幹教諭
五島　政一	国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部 総括研究官
鈴木　宏二	文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課 防災科学技術推進室長
藤山　秀章	内閣府政策統括官（防災担当）付 参事官（調査・企画担当）
山口　英樹	消防庁 国民保護・防災部 防災課 課長
四日市 正俊	内閣府政策統括官（防災担当）付 参事官（普及啓発・連携担当）

（平成 24 年 12 月 13 日現在、所属役職別 50 音順、敬称略）

プログラム

9:00 受付 ～　　※受付場所： 1階エントランスホール

10:00 開会

10:00 開会挨拶

防災教育チャレンジプラン実行委員長　林 春男

内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（調査・企画担当） 藤山 秀章

10:20 2012年度 実践団体発表　司会：（ 防災教育チャレンジプラン実行委員 鍵屋 一 ）

10:20～ ① くにたち地域外国人のための防災連絡会（KUNIBO）（1 団体 10 分）
10:30～ ② 千葉県立東金特別支援学校
10:40～ ③ 東京都立調布特別支援学校
10:50～ ④ みどりが丘小学校 学校支援委員会 環境整備部
11:00～ ⑤ NPO 法人はままつ子育てネットワークぴっぴ
11:10～ ⑥ 横浜市立北綱島小学校
11:20～ ⑦ 秋田県大館市立第二中学校
11:30～ ⑧ 気仙沼市立階上中学校

11:40 2012年度 実践団体発表 総括

防災教育チャレンジプラン実行委員　栗田 暢之

11:55 昼 休 憩 《60分》

12:55 2012年度 実践団体発表　司会：（ 防災教育チャレンジプラン実行委員 木村 玲欧 ）

12:55～ ⑨ 糸魚川市立根知小学校（1 団体 10 分）
13:05～ ⑩ 立命館大学国際部国際協力学生実行委員会（CheRits）
13:15～ ⑪ 新潟市立新潟小学校
13:25～ ⑫ 志摩市立国府小学校
13:35～ ⑬ 和歌山大学防災教育チーム SAZANKA
13:45～ ⑭ NPO 法人大杉谷自然学校
13:55～ ⑮ 秋田理教クラブ
14:05～ ⑯ わがやネット
14:15～ ⑰ 四日市市中央学童保育所
14:25～ ⑱ 山口県立大学災害ボランティア実行委員会 ぷちボラYP勇気

14:35 2012年度 実践団体発表 総括

防災教育チャレンジプラン実行委員　栗田 暢之

14:50 サポーター認定証授与、記念撮影

防災教育チャレンジプラン実行委員　松尾 知純

15:00 休 憩 《10分》

《 審査委員会 開催 》

15:10 2013年度 実践団体発表　司会：（ 防災教育チャレンジプラン実行委員 中川 和之 ）

15:10～ ① 熊本県阿蘇郡南阿蘇村立久木野中学校（1 団体 5 分）
15:15～ ② くにたち地域外国人のための防災連絡会議（KUNIBO）
15:20～ ③ 仙台市立南吉成中学校
15:25～ ④ アトリエ太陽の子
15:30～ ⑤ 飯田市赤十字奉仕団
15:35～ ⑥ 大船渡市立吉浜中学校
15:40～ ⑦ 糸魚川市立大和川小学校
15:45～ ⑧ 千葉県立千葉聾学校
15:50～ ⑨ 伊豆半島ジオパーク推進協議会

15:55 休 憩 《10分》

16:05～ ⑩ 気仙沼市立階上中学校
16:10～ ⑪ 上之郷小学校
16:15～ ⑫ みどりが丘小学校 学校支援委員会 環境整備部
16:20～ ⑬ 高知県立室戸高等学校
16:25～ ⑭ 社会福祉法人 大阪市鶴見区社会福祉協議会
16:30～ ⑮ 九十九里町立片貝幼稚園
16:35～ ⑯ 市原市立白金小学校
16:40～ ⑰ 港区立お台場学園港陽中学校

16:45 2013年度 実践団体発表 総括

防災教育チャレンジプラン実行委員　市川 啓一

17:10 2012年度 防災教育チャレンジプランの表彰・講評

防災教育チャレンジプラン審査委員長　渡邉 正樹

17:25 閉会

17:25～17:40 次年度団体 説明会 2013年度実践団体より各1名参加
18:00～20:00 交流会 （希望者のみ対象）　※別会場にて開催

2012年度実践団体（一般枠）の紹介

① くにたち地域外国人のための防災連絡会（KUNIBO） ／ 東京都国立市《大学・一般の部》

昨年と今年の活動で在住外国人が主体となって作成した防災メモ、ステッカーや防災マップを使って訓練また災害時のみならず日常の生活での活用をはかる。

今年度のプランの特徴：昨年の大震災を受けて、防災に関しての意識についてはまだまだ十分でないことに気づかされた。特に日本語での情報交換は緊急時には限界がある。災害時通訳ボランテアの必要性を痛切に感じた。行政，大学と協働して災害時通訳ボランテアを募集、育成する。

② 千葉県立東金特別支援学校 ／ 千葉県東金市《小学校低学年の部～大学・一般の部》

地域の自治会や老人会等と特別支援学校との夜間を含めた合同防災訓練や防災安全マップの作成等を行うことで、地域と一体となって防災に対する意識を高める。学区である山武郡市（東金市、山武市、大網白里町、九十九里町、横芝光町、芝山町）をユニバーサルの視点でつなぎ、防災について得た情報を発信し共有していく。また、日々の授業を通して、障害のある児童生徒に対する防災教育のポイントを探ったり、障害に応じた防災用具の開発に取り組んだりする。

③ 東京都立調布特別支援学校 ／ 東京都調布市《大学・一般の部》

①Ｈ２４年度の「全校研究会」のテーマに「防災教育の充実」をとりあげ、教職員の危機管理意識の向上と、特別支援学校における児童・生徒の「防災教育・安全教育」の推進を図る。

②本校に求められる防災機能を、隣接する国立大学・市立小学校とで整理・役割分担し、そこに地域住民も絡め「地域全体での危機管理機能の向上」を推進していく。

①は校内教職員の危機管理意識の向上及び児童・生徒への「身を守る」力の育成、②は「地域社会全体での危機管理意識の向上・障害をもつ人への支援体制の整備」が最終目標。

④ みどりが丘小学校 学校支援委員会 環境整備部 ／ 千葉県八千代市
《小学校低学年・高学年の部、大学・一般の部》

家庭において災害時の初動訓練及び子供の対応力の強化及びその取り組み状況を確かめる。家庭及び防災組織・学校との連携を確認することを前提とした。震災を想定した、防災ウォークラリー実施及び１日避難所生活を体験することで、災害時の体験を行う。

＜活動成果＞実際の避難活動及び避難所運営によって、ノウハウの蓄積と今後の避難所運営についてプログラム作成
→避難者・支援者・学校運営者・教員・防災担当者などの参考資料及び知識蓄積
→他の学校での避難所運営に対する情報提供作成

⑤ NPO法人はままつ子育てネットワークぴっぴ ／ 静岡県浜松市《大学・一般の部》

東日本大震災のような未曾有の災害を目の当たりにし、これまでの災害への想定を見直す必要を誰もが感じた。そこで、

１．楽しみながら学ぶことで身につく防災教育を行い、幼児などの子どもにも防災意識を高める。
２．日頃からの地域のネットワークを見直し、災害時に備え、地域の防災力の向上を目指す。
３．女性など要援護者になりうる人の視点を持つ地域リーダーの育成をする。

⑥ 横浜市立北綱島小学校 ／ 神奈川県横浜市《小学校低学年・高学年の部》

児童在校中の震災に対しては、想定される火災延焼にも対応し、保護者の帰宅困難を想定した児童の「防災宿泊訓練」を本年度から実施。児童が自宅等にいる場合を想定した、地域防災拠点訓練には全児童、保護者が参加して行い、児童の防災授業参観や、６年生の総合の発表も実施予定です。家庭防災会議を宿題とし、児童は「家庭防災マニュアル」を作成。朝８時に直下型地震が発生した想定で、家庭内避難訓練を実施します。

⑦ 秋田県大館市立第二中学校　／　秋田県大館市《中学校の部》

雪害に対する知識を深め、雪下ろし等の危険について学び、積雪時の避難訓練など、この地方特有の災害時の対策及び高齢者などの生活弱者の避難について考えるとともに学校が避難所となった際の役割や在り方、備え等について学び、一斗缶を活用して、鍋による炊飯を行い非常時や停電時の炊き出しの訓練を実施する。また、鉱山跡地を活用したリサイクル施設の産業廃棄物や汚染土壌の現状を把握し、放射能等の知識を深め、対応について理解する。

⑧ 気仙沼市立階上中学校　／　宮城県気仙沼市《中学校の部》

地元の関係団体や住民の協力を得ながら，災害発生時および発生後の対応について考え，実践させることで，以下のねらいに迫る。

・災害について正しい知識と理解を深める。
・災害発生時および発生後に必要とされる判断・技能を身に付ける。
・災害発生時および発生後に大切な相互扶助の精神を養う。

〇特徴…中学生だけでなく，小学生や校庭にある仮設住宅の住民，自治会を中心とした地区の人々など，地域住民と協力しながら，総合防災訓練（共助）を行う。

⑨ 糸魚川市立根知小学校　／　新潟県糸魚川市《小学校低学年・高学年の部》

糸魚川ジオパーク特有の自然災害に対して、地域をまきこみながら防災教育に取り組んでいます。

防災教育チャレンジプランに挑む教職員が、防災戦隊チャレンジャーに変身！チャレンジャーは、さまざまな災害から命を守るための知識や技能を身につけるために、工夫をこらして、児童や保護者、地域のみなさんに MISSION を与えます。チャレンジャーのモットーは、アイデアと行動力、そして発信力！

⑩ 立命館大学国際部国際協力学生実行委員会（CheRits）　／　京都府京都市
《中学校の部、大学・一般の部》

災害に対する脆弱性が高い社会（とくに途上国）における防災教育の推進は急務と言われています。日本の防災教育団体が蓄積してきた知識や知恵は貴重であり、それを活かせば国外でも活躍できると思いますが、文化相違などの壁があり、容易ではないようです。そこで、当委員会がインドネシアにおいて文化・慣習に配慮しつつ防災教育を行なってきた経験を、日本の防災教育団体が海外で活躍する一助となるよう、マニュアル化したいと思います。

⑪ 新潟市立新潟小学校　／　新潟県新潟市《小学校高学年の部》

本プランは、学校と地域が連携し、防災への意識を高めることからスタートする。そして、全校体制で行う避難訓練を基本としながら、自分の住む地域で起こる災害に臨機応変に対応し、適切な行動を選択する力を身に付けることを目的とする。４学年では、地域の特性を考慮した避難方法を考え、学習の成果を「マイ防災マップ」にまとめ、地域や保護者へ発信することで、地域や家庭と連携した防災教育を推進する。

⑫ 志摩市立国府小学校　／　三重県志摩市《小学校低学年・高学年の部》

小学校・幼稚園・児童館・自治会が合同で研修会や避難訓練等を行い、地域と連携した防災教育を実施することで「自助」「共助」意識の高揚と実践力の向上をめざします。また拠点学年の児童が地震津波対策についての地域学習を行い、その学習成果を発信したり、手づくり防災カレンダー等として全戸(約４５０戸)に配布したりして、防災についての啓発を試みます。地域と交流しながら楽しく防災学習を進めます。

⑬ 和歌山大学防災教育チーム　SAZANKA　／　和歌山県和歌山市《大学・一般の部》

和歌山県は、東南海・南海地震や中央構造線断層帯の活動による地震の発生が懸念されています。そこで、私たちのプランでは、「防災手帳作成」の教材化および教育現場での実践に取り組みます。この活動を通じて、子どもたちが実践的な知識を身につけ、地震と向き合う態度を養うことをねらいとしています。この防災手帳は、基本的な防災知識に加え、自分が住む地域の情報も盛りこみ、その地域オリジナルの防災手帳を作成するところが特徴です。

⑭ NPO 法人大杉谷自然学校　／　三重県多気郡大台町
《小学校高学年の部、中学校の部大学・一般の部》

１．豪雨災害被災地である経験を生かした防災教育プログラムの開発する。
２．防災教育プログラムに係る人材の育成。

⑮ 秋田理教クラブ ／ 秋田県秋田市《小学校高学年の部、中学校の部》

秋田県の地震防災教材の現代化を図ることが大きな目的である。そのために，児童生徒の地震の認識や教員のニーズの分析，秋田県の地震環境を反映させた教材の開発，その開発した教材を使用して，学校の地震防災教育で行われていない内容に重点をおいた実践を行う。最終的にはその実践を基に，開発した教材の評価を行うことで完成度を高める。開発した教材は研究室のホームページ等で公開，または秋田県の理科教員に配布する予定である。

⑯ わがやネット ／ 愛知県名古屋市《中学校の部～大学・一般の部》

大地震発生時において被害を少なくするためには、家具等の転倒防止対策を行うことはとても有効な手段です。その推進を目的に家具等転倒防止対策の講座及び実習を行います。

なお、本プランでは講習等の対象を小学生や高校生にも拡大していきます。

⑰ 四日市市中央学童保育所 ／ 三重県四日市市
《保育園・幼稚園の部、小学校低学年の部、大学・一般の部》

私たちが考えるプランとして以下のことを取り組みます。

1.親子で防災を考える教材の開発。
2.地域に適した防災を考える教材の開発。
3.地域に適した非難・訓練の開発。

私たちが考えたプランの特徴として以下の内容です。

1.地域住民が主体となる防災。

⑱ 山口県立大学災害ボランティア実行委員会 ぶちボラ YP 勇気 ／ 山口県山口市
《大学・一般の部》

このプランの主な目的は防災豆知識 BOOK を作ることを通して、災害時に備え、地域住民と学生、および地域住民同士のネットワーク作りをおこなうことです。この防災豆知識 BOOK は地域住民との情報交換で得られた防災知識も取り入れます。それを活用して、住民や山口県立大学生に防災の意識啓発をおこない、災害時に助け合いができるようネットワーク構築します。

2012 年度防災教育チャレンジプラン（一般枠）

① くにたち地域外国人のための防災連絡会（KUNIBO）

プラン名　くにたち地域外国人のための防災対策

プランの対象　在住外国人　　**所在地**　東京都国立市及び周辺地

―プランの目的・ここがポイント！

公民館が外国人のための防災の情報の拠点と位置づけられたことから、この地域で学ぶ外国にルーツを持つ人々が防災の意識を高め、助けられる側から助ける存在に成長して行き、自然に地域にとけ込み、共生を自然体で進めて行くこと。大学町という特性を生かし、一時滞在者であっても留学生を協力者として育成し、日本の現状を知らしめ、あるいは、これを彼たちの国において活用のヒントに繋がることを視野に入れた研修、実践を立案し、地域住民、大学、行政が一体となって防災、外国人との共生につなげていくことを目的とする。

―プランの概要

様々な角度から人々の結びつきを作る企画、実施

1. 生活防災マップの作成
2. ２ヶ月に一度の防災関係、および外国人の生活に関連する講演、および実践研修

―期待される効果・ここがおすすめ！

1. 人々が知り合うこと（公民館を中心に全ての住民、行政、国の機関（大学、JR）、地元企業）
2. 現実を見聞きすること
3. 外国人にとって、この地に住む意味を再確認してもらえること

―成果として得たこと

1. くにたち防災マップを制作（在住外国人の視点から制作　日本語、中国語、韓国語、英語）
2. ボランテア、外国人を対象に隔月防災意識向上と日常の生活上の改善につながる講座を開催
3. 昨年度作成した防災メモを配布、外国人、ボランテアを対象に教育、訓練の実施
4. 地元大学留学生、在住外国人、ボランテアの方々から災害時通訳ボランテアを募った。
5. この活動継続には外国人の積極な参加が必要である。そのためキーマンの選定を行なった。
（現在中国人の方ひとり、順次増やす必要有り）

（写真は避難訓練の様子）

―全体の反省・感想・課題

講演と企画に大勢の人々の参加を促したいとの考えから、PRのため、チラシを毎回作り配布したが、やはり紙媒体の弱さを感じている。人から人へ、口から口へと広げていくためにスタッフは他の団体の企画にもできるだけ参加し、そこで、自分たちの企画の PR を行ったため、ボランティアスタッフとしては限界まで来ていると感じている。

―今後の継続予定

在住外国人が主体となって作成した防災メモ、ステッカーや防災マップを使って訓練し、また日常の生活での活用をはかる。行政，大学と協働して災害時通訳ボランテアを募集、育成に努めたが十分ではなかったので今後も継続する。

災害時弱者である高齢者、外国人のための防災ステッカーを見直し、やさしい日本語で書いて誰にでも使用可能とする。やさしい日本語の習得、近隣のグループ及び外国人キーマンとの交流、防災教育プログラムの作成などが次年度のチャレンジとなる。

② 千葉県立東金特別支援学校

プラン名
防災コミュニティ＆コミュニケーション
～北之幸谷から山武郡市へ「防災ユニバーサルねっと」を広げよう～

プランの対象
小中高の児童生徒
保護者・大学・一般

所在地
千葉県東金市

―プランの目的・ここがポイント！

【自助】授業を通して、障害のある児童生徒に対する防災教育のポイントを探る。また、登下校や土日等における避難場所や連絡方法、引き渡しの確認等を通じて、家庭の防災意識を高めるようにする。

【共助】ＰＴＡや児童生徒会が中心となって、東金市北之幸谷区自治会と協力し、防災をテーマとした地域との交流を行い、地域と一体となって防災に対する意識を高める。

【公助】「防災ユニバーサルねっと」の構築に向けて、講演会や防災安全マップの作成、ネットワーク会議等を通じて、関係機関との情報の共有を図り連携を深める。

―プランの概要

【自助】高等部：美術で防災マルチパーティションや防災ピクトグラム、防災絵本を作成する。情報では防災クイズを作成する。小中学部：防災の歌を作成し、音楽で取り組む。生活単元学習で防災キャンドル作り等を行う。

【共助】ＰＴＡ：地域と協力し、福祉避難所をイメージした避難所開設や炊き出し訓練を行う。児童生徒会：長寿会を招いて、防災をテーマとした全校児童生徒集会を行う。

【公助】東金地域防災教育ネットワーク会議を実施する（小中高や関係機関）。

―期待される効果・ここがおすすめ！

定着と継続を考えた、社会貢献型の防災教育とユニークな活動！あたりまえ体操の替え歌♪

―成果として得たこと

避難訓練後に頭を守ることの実態調査を行い、実践を振り返る中で、防災頭巾ではなくヘルメットの方が有効であることが指摘され、車椅子にはヘルメットが備え付けられるようになった。実践の反省から職員の主体的な取り組みとしてヘルメットを備えることになったことは、防災教育の大きな成果である。児童生徒会が主催となって行っている全校集会に長寿会を招いて、防災をテーマとした地域との交流を行った。小学部と高等部が手をつなぎ、長寿会の方と本校の児童生徒が手をつなぐ。緊急地震速報が流れると、廊下や階段にいたグループは、その場にしゃがんで頭を守る。高等部の生徒が小学部の生徒の頭を押さえながら自分の頭も守ろうとする姿があった。防災をテーマとした地域との交流から、共助の姿を見ることができた。

―全体の反省・感想・課題

災害時要援護の支援については、自治体や地域によって取り組みが大きく異なることが分かった。受授力を高めるための自助の推進、地域のつながりを高める共助の取り組み、そして、公助のしくみ作り等がうまくかみ合わないと進まないと感じる。それらをつなぐ防災教育災コーディネーターのような存在が必要である。

―今後の継続予定

命と健康を守る防災教育に向けて、ユニバーサルな視点で関係機関をつなぐ「防災ユニバーサルねっと」の継続と、日々の授業や行事をユニバーサルな視点で見直し、「わかる」「できる」「どの子も居場所がある」学校生活のユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくりの実践をしていく。

③ 東京都立調布特別支援学校

プラン名　地域全体の危機管理能力の向上をめざして

プランの対象　児童・生徒、教職員、保護者、近隣地域の学校・住民・行政

所在地　東京都調布市

―プランの目的・ここがポイント！

①教員（防災プロジェクト・危機管理委員会・生活指導部・研究部）保護者（ＰＴＡ危機管理担当）地域（リソースネット・防災教育推進委員会）と言った各組織を活用し、特別支援学校における児童・生徒の「防災・安全教育」を推進し、実践的な防災教育を実施する。

②求められる防災機能を、隣接する国立大学・市立小学校とで役割分担・整理し、「地域全体での危機管理機能の向上」を推進していく。

―プランの概要

・障害のある児童・生徒の実践的な「身を護る力の育成」。（自助）
・未整備の「福祉避難所設営」訓練のあり方の検証。
・スクールバス登校便における災害時参集訓練（登校中の災害を想定した初めての訓練）
・リソース・ネット（本校の児童・生徒が安全で豊かな学校生活を送れるように応援する外部支援組織）との連携を強化・軸とした地域全体での危機管理機能の向上。（共助）

―期待される効果・ここがおすすめ！

・特別支援学校に対する地域の支援体制整備の理解。
・学校や地域の特徴に合った「地域連携学校防災マニュアル」の策定

―成果として得たこと

・調布市、警察署、消防署を始めとした行政機関や、リソース・ネットを中心とした地域住民や保護者を巻き込んだ連携・関係がより一層強くなり、「地域と連携した防災訓練」を初めて実施することができた。
・教職員の危機管理意識が向上し、「日常生活時に身に付けておくべきこと」「避難訓練時など特別に取り組むこと」を整理し、担当部署において年間指導計画を作成し、計画的に生活単元学習等に、防災・安全教育を組み入れることができた。

―全体の反省・感想・課題

・今まで校内：生活指導部が中心となって担ってきた取り組みを、（上段：プランの目的に掲げた）複数の各組織が防災・安全教育の推進を図り、相互に関連しながら進めていくことができた。学校だけではなく、地域においても防災に関する意識が高まり、本プランが推進力になったと思われる。
・「地域全体での危機管理機能の向上」をより一層推進していくために、各組織、地域、「調布駅近辺の教育機関を対象とした防災対策連絡会」「防災教育推進委員会」などを通して、防災機能の役割分担を明確にしていくことが今後の課題である。

―今後の継続予定

・非常災害時に有効な連携が取れるように、本校、調布市、国立大学法人電気通信大学、調布市立第一小学校との「調布駅近辺の教育機関を対象とした防災対策連絡会」の定期開催。
・各学部、学年が作成する年間指導計画に基づいた、防災・安全教育の計画的な実施や、実災害に即したバリエーションのある自衛防災訓練の計画及び実施。

④ みどりが丘小学校　学校支援委員会　環境整備部

プラン名　みどりが丘小学校避難キャンプ！

プランの対象　小学校低・高学年の部 ～大学・一般の部

所在地　千葉県八千代市

―プランの目的・ここがポイント！

３．１１での隣接校が避難所として開設された経験から企画を行いました。開校三年目において、学校・地域とのつながりを深くしていくものとして企画しました。学校の周辺は、まだ住宅地開発が途上のため、あまり居住者が少ない地区ですが。地域の人・企業などに協力をいただいて、キャンプを行います。

新設校のという側面から、新しい要素を取り入れて、従来型の防災訓練ではなく、極力抜き打ち的な要素を取り入れつつ、参加を募りました。「もしもの時に」今回の訓練が役立つことを願っています。

―プランの概要

実施前に、八千代市では初めての３．１１の対応や、家庭での備えについての防災アンケートを実施しました。

キャンプは、地震があったとの想定で、駅前広場に集合（地域の人達が見学ができるように）して、まずは、防災ウォークラリーを実施しました。防災の啓発と、参加者の意識向上を目的でした。

次に、みどりが丘小学校に避難をして、防災倉庫探検から、防災について対話、屋外調理、防災備品作成（キャンドル作成）などを行いました。この中では、１～６年生と、保護者、地域の人との避難所として問題などをみんなでディスカッションすることで、問題提起と、解決力を養いつつ、コミュニケーションに構築することで、絆を作るようになりました。

―成果として得たこと

実施した感想は、

① 一泊を通して、参加者からは繋がりを感じたとの意見が多かった。
② 継続したいとの希望が多く、来年度も実施することにした。
③ 子どもたちがこのキャンプ経験から、もっとやりたい、こうすればよかったなどの意見が出ている。

これらのことから、継続していく方向で学校と意見合致しました。参加した保護者からは、子どもたちが成長する過程を、まじかに感じられたとのことであった。

当初実施に至るまで、乗り越える課題が多かったが、みなさんの協力で無事終了したのも成果だと思っています。実施をしたことで、現在の防災力の向上が必要なことと、個人、家族で備えが大事であると思いました。

―全体の反省・感想・課題

スタッフが少なく準備や実施段階での現場はドタバタした感じがありました。そのため、次は事務局を立ち上げていきことにしました。子どもたちは、防災キッズ隊として立ち上げをして実施段階で活躍をすることにしました。

―今後の継続予定

来年度もサバイバルキャンプとして実施することになりました。
子どもたちを中心にしていくもので企画を考えています。

2012 年度防災教育チャレンジプラン（一般枠）

⑤ NPO 法人はままつ子育てネットワークぴっぴ

プラン名 子どもを守る防災ネットワーク事業

プランの対象 大学・一般の部　　**所在地** 静岡県浜松市

―プランの目的・ここがポイント！

これまでぴっぴが行ってきた防災講座「ぼうさいぴっぴ」では、①楽しみながら学び、参加者が自主的かつ積極的に防災に取り組むこと、②女性や子どもの視点を取り入れること、③地域防災に女性が入り込むことなどに着目して行ってきた。活動の中から、「防災教育」として、子どもを守るだけの存在としてでなく、子ども自身が防災を学び、生き抜く力を育てることが必要であることが感じられた。そこで、未就園児とその親子に「防災プレ教育」として、子どもの発達段階にあった防災教育のプログラムを開発し、講座を広めていく。

―プランの概要

災害は、いつ起こってもおかしくない。また、いつ・どのような時に起こるかわからないものである。防災の知識は広がりを見せ、備蓄などの備えを各家庭でしているが、発災直後、家族の安否確認など、必要があると感じつつも、どうすべきか考えていない子育て家庭が多い。そこで、特に「家族防災会議」の必要性・重要性に気づき、実行していくためのプログラムに重点をおく。

―期待される効果・ここがおすすめ！

災害を100%防ぐことはできないので、いざという時のために備えておくことで被害を最小限にするという「減災」の重要性に参加者が気づく。また、家族バラバラの時に被災してもお互いに生き延びることができるように、各家庭で家族防災会議を定期的かつ継続的に行う。子どもの成長に合わせて、子ども自身が防災知識を学ぶことにより、親の不安拡大を防ぐ。

―成果として得たこと

子育て家庭では、「家族がバラバラの時に被災したらどうするのか？」という不安を強く感じている。

そこで、小・中学生でも防災行動をとれ生き延びた子どもたちがたくさんいた事例などから、普段からの防災教育の大切さを親に伝えられた。

また、幼児であっても「防災プレ教育」として、子どもの発達に合った学習を行うことができるということが親の気づきとなった。その第1歩として、防災講座に参加したことで満足することなく、各家庭に戻ってから「家族防災会議」を定期的・継続的に行う必要性を得ることになった。日常的に防災について親子で話すことが、いざという時の冷静で適切な判断を導くことにつながっている。

―全体の反省・感想・課題

今回は、子どもが講座スペースと保育スペースを行き来しながら参加できるように行ったため、乳幼児でも親子で一緒に学べる状況が作れた。しかし、託児に費用がかかるため、費用の捻出、または託児なしでも学べるプログラムの開発が必要である。

防災の意識は、日常生活の中で徐々に薄れがちであるが、定期的に防災家族会議を行うことで、意識の低下を防ぐ。また、いざという時に普段の防災行動が冷静な判断と行動に役立つことを伝えられた。

―今後の継続予定

「ぼうさいぴっぴ」開催時の、参加者の状況によって、積極的に取り入れていきたい。

子育てサークル・子育て支援団体の日常の活動の際に、「ぼうさいぴっぴ」を取り入れてもらい、広めていきたい。

⑥ 横浜市立北綱島小学校

プラン名　学校、地域、保護者が地域の災害想定を共有して取組む防災教育の推進

プランの対象　児童・職員
保護者・地域

所在地　神奈川県横浜市

―プランの目的・ここがポイント！

木造家屋密集地帯にある本校は、学校にいる時間帯でも、８割を占める帰宅後の時間帯でも、子どもが震災から自らの知識と判断で身を守ることのできる力を育成するため、次の課題に取り組んだ。

（１）最悪の想定（本校の場合は火災延焼）と行動の基準を、学校、家庭、地域で共有。
（２）総合的な学習の時間等を活用した児童の防災リテラシーの向上。
（３）子どもを守り抜く学校組織と、火災延焼への防災対策など、実戦的な訓練による研究。
（４）家庭の防災リテラシーを高め、親子で身の守り方を考え、実践できる力を育てる。
（５）学校、家庭、地域の連携組織を構築し、地域防災訓練を児童、保護者参加のもと充実させる。

―プランの概要

（１）６年総合的な学習の時間では、地震学者を講師に招き、DIGを経験することから始めた。
（２）保護者防災教室を実施し、建築士による「耐震補強」「家具固定」の講演を開催。
（３）防災用具も学校独自で充実させ、初期対応ができる体制を整えた。
（４）首都直下型地震が発生した場合の児童宿泊を想定した「宿泊防災訓練」を実施した。
（５）地域防災拠点訓練に連動して、「家庭防災会議」「家庭防災マニュアル」「家庭内避難訓練」防災授業参観」を実施し、初期消火救出訓練を３００人の保護者が見学した。

―期待される効果・ここがおすすめ！

学校、家庭、地域の連携の難しさに対する「為せば成る」という、一つの答えを示したい。
児童が８割の時間を過ごす、帰宅後の災害への対応力を育てることと、「事前防災」を徹底重視。

―成果として得たこと

（１）学校の災害対応力の向上
児童在校中、震度７の首都直下型地震で、最悪の事態（火災延焼・火災旋風）を想定し、児童の安全確保と同時に、「近隣火災監視、近隣初期消火、第二次避難路確保」の三体制を確立する職員組織、マニュアル作りができた。児童は災害と闘う職員の後ろ姿を見て育つ。

（２）家庭ぐるみの防災教育の実現　「保護者防災教室」「地区班防災懇談会」「学校家庭防災マニュアル」「家庭防災会議」「（各）家庭防災マニュアル」「家庭内避難訓練」を実現。さらに、「防災授業参観」にて、保護者も家庭での防災を児童とともに考える機会も実現。

（３）「防災教育推進委員会」の創設、「地域防災拠点運営委員会への学校とＰＴＡの参画」により、学校、家庭、地域で連携して取り組む防災教育、地域防災訓練を実現。さらに、大地震発生後は「家庭内避難」の後、「ゴミステーションに消火用具を持って集まる」という行動目標を共有。一部実現できた。

（４）防災教育的内容を教科に関連して織り込んだ「総合的な学習」の実践や、「防災授業参観」に職員が取り組むことにより、職員の防災教育力が向上。

（５）児童は、職員、保護者、地域が連携して、真剣に取り組む姿を見て、自らも家庭防災マニュアルを考えるなど、主体的に学び、育っている。

―全体の反省・感想・課題

学校として、学校、保護者、地域の連携を実現し、ベストを尽くしてきた感がある。
しかし、「防災宿泊訓練」を終えた６年生の感想に、「先生に言われたことは、よくできた。もっと自分で考えて取り組めたらよかった。」という言葉があったのは、頼もしく、うれしい課題提示である。

2012 年度防災教育チャレンジプラン（一般枠）

⑦ 秋田県大館市立第二中学校

プラン名　アヤメの里の防災リーダー目指して ～雨にも負けず 雪にも負けず～

プランの対象　中学生、小学生、保護者、地域住民ほか

所在地　秋田県大館市

―プランの目的・ここがポイント！

・地域住民の防災意識や実践力を高めるために、中学生が地域の防災リーダーとして、防災活動を企画・運営していける力を身に付ける。
・災害時、学校が地域の避難場所として機能するため、避難所運営のための知識や実践力を身に付ける。
・地域産業における防災活動を理解し、人災等の二次災害を防ぐための努力を学んだり、提言としてまとめたりする。

―プランの概要

・生徒を中心とした防災活動検討委員会を組織し、地域住民と共に地域防災組織を立ち上げ、地域に根ざした防災活動に取り組む。
・避難所コンテストや炊き出し訓練など、学校が避難所となったときの役割や運営の仕方を考える。
・地域産業を訪問し、地域産業が取り組む防災について学習を深める。

―期待される効果・ここがおすすめ！

・地域住民との交流が進み、地域の防災意識が高まる。また、「地域力」として、中学生が必要な人材となり、地域を活性化させる役割を担う。
・災害時に対応する知識や実践力が身に付き、地域に貢献できる。
・地域産業を理解することで地域愛を育むことができる。

―成果として得たこと

・地域に根ざした防災活動を展開したことで、地域住民の防災意識を向上させることができた。また、これまで培った地域連携をさらに深めることができ、地域と学校の一体感が醸成された。
・生徒が地域の一員としての自覚をもち、将来にわたって地域のために尽くすといった心情を育むことができた。
・生徒中心の防災活動検討委員会を立ち上げたことで、防災に関する意識が高まったとともに、諸活動における主体性が育まれた。
・先進的な取り組みとして，その成果を県内に普及・啓発することができた。

―全体の反省・感想・課題

・年間計画を策定し、見通しをもった取り組みができた。教育課程内でできること、教育課程外で行うことを明示したことで計画的により実践的に活動することができた。
・防災教育を通して、防災に関する知識や実践力を身に付けることができた以上に、地域連携やふるさとに対する愛着をもてたことに大きな意義があった。
・課題としては、チャレンジプラン終了後の活動の継続やより地域の実態に即した活動内容の検討が求められる。
・保護者とのより確かな連携を進めたい。

炊き出し訓練における自衛隊の実演

―今後の継続予定

２年間の防災教育チャレンジプランの実践を受け、生徒や地域の防災意識や災害への実践力が身に付いてきた。の活動を継承し、次年度以降は次のような取り組みを考えている。

１　活動内容の精選と継続的な取り組み
２　実践内容の集約と実践成果の普及と還元

⑧ 気仙沼市立階上中学校

プラン名　「私たちは未来の防災戦士」～「自助」「自助・共助」「自助・公助」の学びと「つながり」の大切さを通して～

プランの対象　中学生

所在地　宮城県気仙沼市

―プランの目的・ここがポイント！

○「知る」「備える」「行動する」を視点とした実効性のある防災学習
→東日本大震災による被災の反省から，正しい知識や十分な備え，日頃の訓練の充実を図る。
○「自助」を基盤にした「共助」への取組
→小学生に出前授業を行ったり，一緒に避難所設営訓練をしたりするなど防災啓発活動を行うと共に，階上中学校区防災教育推進委員会による各自治会との合同一次避難訓練を実施する。

―プランの概要

○仮設住宅居住者との合同避難訓練【自助・共助】
○学年毎防災体験活動　【自助・共助】
○避難所設営訓練　【共助】
○防災マップの作成　【自助・共助】
○ショート避難訓練　【自助】
○各自治会との合同一次避難訓練　【共助】
○防災学習発表会　【自助・共助】

―期待される効果・ここがおすすめ！

○学年毎の防災体験活動やショート避難訓練，各自治会との合同一次避難訓練を通して津波への正しい知識や脅威，地域における過去の災害の歴史を学び，災害発生時の正しい対応行動を身に付けることができる。
○仮設住宅居住者との合同避難訓練や各自治会との一次避難訓練，総合的な学習の時間での避難所設営訓練を通して地域を知ると共に，災害発生時の実態に応じた対応行動をはじめ相互扶助の精神の大切さを学ぶことができる。
○防災学習発表会や防災マップの作成・配布を通して，「震災を風化させてはいけない」というメッセージを地域に送り，各家庭や地域住民の防災意識の高揚を図ることができる。

―成果として得たこと

○東日本大震災による被災の反省から，津波災害に全般について正しい知識や十分な備え，日頃の訓練の充実を図ることができた。今年度のテーマである「自助・共助」のもと，「知る」「備える」「行動する」を視点とした実効性のある防災学習を実践することができたと考える。特に，１２月７日（金）の夕方に津波警報が発表された後，生徒たちは直ちに体育館で避難所設営を始めた。避難者は３００人を超えていたが，避難者カードの配布や避難者一覧表の作成・貼付，畳や椅子による避難スペースの確保，毛布の配給など，訓練通り避難所設営などに率先して取り組んだ。

―全体の反省・感想・課題

○今年度の本校の防災学習計画において，大きな達成度が見られたと感じている。引き続き「自助」を基盤とし，「知る」「備える」「行動する」を視点とした実効性のある防災学習の実施や地域との連携継続が大切である。さらに，「正常化の偏見」「楽観バイアス」への執着とも考えられる災害の風化防止に努めなければならない。そして，将来世代に向けてより良い魅力的な地域社会に再構築するために，復興教育にも力を入れていく必要があると考える。

―今後の継続予定

○次年度のテーマは「自助・公助」である。災害についての正しい知識や理解，災害発生時・後に必要とされる判断力・技能を身に付けると共に，公的機関の役割やＮＰＯ等の活動内容などについて学習する予定である。様々な状況下で地域の方々と避難訓練を行ったり，震災直後に公的機関がほとんど機能しなかったことを踏まえて，災害時に「公的機関の支援がくるまでにできること」という条件のもと避難所設営・運営訓練等に取り組んだりすると共に，「地元の復興に向けて中学生ができること」などについて学習していく計画である。

⑨ 糸魚川市立根知小学校

プラン名　根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育２０１２

プランの対象　小学校児童
地域住民

所在地　新潟県糸魚川市

―プランの目的・ここがポイント！

糸魚川ジオパーク（G）特有の自然災害に対して、地域・住民（C）を巻き込みながら、防災教育（B）に取り組む。防災教育チャレンジプランに取り組む教職員が、防災戦隊チャレンジャーに変身！チャレンジャーは、児童や保護者、地域住民が災害から命を守れるよう、さまざまな MISSION を与えます。チャレンジャーのモットーは、アイデアと行動力、そして発信力！

―プランの概要

１．GCB と関連付けた防災教育カリキュラムの作成
２．校内研修に位置付けて行う一人一研究・実践（一つ以上）の取組
　①防災戦隊チャレンジャー　②非常サイレンの日　③指導案検討・公開授業研修　など
３．GCB４８メンバーの育成に向けた防災MISSIONの取組
４．保護者・地域住民参加の防災研修機会の設営
　①地域防災懇談会　②サプライズ避難訓練　③防災・宿泊体験学習（ＤＩＧ・避難所研修）など

―期待される効果・ここがおすすめ！

児童だけでなく、保護者や地域の参観者をも巻き込んだサプライズ避難訓練の実施により、災害発生時の行動の仕方について問い直す機会となる。教科等の学習に関連付けた防災教育カリキュラムと防災MISSIONにより、防災にかかわる知識の深まりとその活用が期待される。

―成果として得たこと

防災教育に２年続けて取り組んだことで、自校の防災教育の内容が確実に深まった。そして、「防災教育と言えば、根知小学校」と保護者や地域の方々だけでなく、市内の学校職員へも認識されるようになった。また、児童が配布した安否札を活用した防災訓練が実施されたり、小学校の取組や意図を周知する機会として防災をテーマとした公民館大会が開催されたりと、学校と地域との双方向のかかわりが深まった。

地域と共に歩む学校運営の重要性が指摘されている。子どもは地域の宝！その命を守るための防災教育の取組は、まさに地域と共に歩むための重要なツールとなったと言える。

―全体の反省・感想・課題

一人一研究・実践の取組は、職員の多様なアイデアを引き出した。一方、児童の発達段階と身につけさせたい防災・減災にかかわる知識・技能について、共通理解が不足していたため、総合的な学習の時間の学びに、防災の内容を盛り込むことに苦慮することになった。

また、地域の自主防災組織と合同で防災訓練が行えるよう、今後も地域防災懇談会を開催し、連携を図っていきたい。

―今後の継続予定

新潟県は、防災教育に関して、２６年度から全小中学校において共通の内容で指導できるよう、今年度から防災教育プログラムの開発に取り組んでいる。当校は、土砂災害のモデル校として、これまでの実践を踏まえ、このプログラム開発に携わっており、次年度は試行版を実践しながら、よりよいものにプログラムを改善していく使命を担っている。

⑩ 立命館大学国際部国際協力学生実行委員会（CheRits）

プラン名 The Way to Abroad of Disaster Risk Reduction Education

プランの対象 地域青年団
地域住民・こども

所在地 京都府京都市

―プランの目的・ここがポイント！

★インドネシアに防災教育を！（→防災教育を海外に！）
★日本人が防災教育をするのではなく、現地で防災教育を担う人材を育成します！
★CheRitsと地域青年団が対等にその地域に適した防災教育を考えだします！

―プランの概要

CheRits と地域青年団がともに地域に適した防災教育を考えていく過程で、地域青年団が地域の防災活動を担っていける人材に必要と思われる４つの能力を伸ばせるように（キャパシティディベロプメント）、アプローチしている。４つの能力とは、１．防災に関する知識を活かす能力、２．地域に関する情報を活かす能力（地域に適した防災をする能力）、３．（防災活動の内容を）創意工夫をする能力、４．マネジメント能力である。今回は、地域の小学生が災害・防災に関して学ぶことができるような企画を一緒に考えた。

―期待される効果・ここがおすすめ！

★防災教育（および防災文化）の海外輸出
★災害に対して脆弱な途上国における、主にソフト面のリジリエンス（災害対応力）の強化
★地域ぐるみで防災を考える価値・必要性の逆輸入
★国際協力・国際交流の一環

―成果として得たこと

★今後も一緒に地域の防災を考えてくれるであろう地域青年団が数名見つかった
★４つの能力のそれぞれにアプローチし、各々を少しずつ伸ばし始めることができた
★地域の組織である青年団が始めようとしている活動を地域の人々にも知ってもらい、その価値を認めてもらうために、地域の小学生のための防災活動を考える場に、地域の小学校の先生および婦人会のメンバーにも参加してもらった。これにより、
　☆大人が青年団の足りない能力を補うことができた
　☆地域の違う立場の人々が一堂に会し地域の防災を考えることが、その地域の多様性に適した防災を考えていくのに不可欠であることが明らかになった。
　☆地域の様々な人が一堂に会せるような関係性自体、地域防災には不可欠だとわかった

―全体の反省・感想・課題

★地域のつながりが強く、独立記念日など年に数回地域ぐるみでイベントを行なっているだけに、そこに加えて防災活動に時間と労力を割く意義をしっかりわかってもらう努力が不可欠である。また避難訓練を定期的にやるなど形骸化することのないように、地域に必要な防災（発災時の対応方法や災害に強い社会づくりなど）を考えることを継続してもらうにはまだまだ時間がかかりそうである。

―今後の継続予定

★３月には、またインドネシアに渡航し、実際に青年団および地域の人たちと考えた、地域の小学生のための防災活動を実施する。（ムラピ火山の博物館見学と、ムラピ火山山腹の被災地視察の予定）この活動を通じた青年団の成長をみながら、今後もフォローアップしていく予定である。

2012 年度防災教育チャレンジプラン（一般枠）

⑪ 新潟市立新潟小学校

プラン名　マイ防災マップで守ろう　わたしたちの命

プランの対象　児童
地域住民

所在地　新潟県新潟市

―プランの目的・ここがポイント！

〇学校地域合同避難訓練を行い、地域と一体になって防災に対する意識を高める。
〇様々な地域団体や関係機関、保護者と連携し、多くの目で児童の安全を見守る体制をつくる。
〇想定外の事態に対し、自分の地域の実態に応じた避難方法を考え、安全マップをつくる過程を通して、自分の命を守る力（想定力・判断力・行動力）を育てる。

―プランの概要

仙台市の小学校の校長による東日本大震災の実体験を基にした講話を聞いたり、様々な地域団体や関係機関と連携し、学校地域合同避難訓練を始めとする様々な避難訓練を実施ししたりする活動を通して、学校（児童・教職員）保護者、地域住民の防災に対する意識を高めていく。

これらの体験をもとにしながら、４年生の総合的な学習の時間で防災教育を単元化する。自分の住む地域や登下校中に発生する災害を想定し、様々な条件を考慮しながら、最善の方法で避難する方法を考える。さらに、自分の住む地域の防災マップを作成する活動を通して、地域の実態に応じた避難方法を考え、災害対応力を高めていく。

―期待される効果・ここがおすすめ！

学校地域合同避難訓練の企画・運営を様々な団体と一緒に行うことで、ネットワークが広がり、防災意識の高まりが期待できる。また、想定外の事態にも対応できる「マイ防災マップ」の作成を通して、自分の住む地域に応じた避難方法を考え、災害対応能力を高めることができる。

―成果として得たこと

〇様々な地域の団体や警察，消防署，行政などの関係団体と連携して防災教育を推進してきたことで，より連携が深まり，いざという時の動きの共通理解が図られた。
〇児童だけでなく，保護者，地域の方々と一緒に講演を聞いたり，避難訓練を行ったりする中で，日頃からの学校と地域の連携や備えの大切さを学ぶことができた。
〇自分の住む地域や登下校中に災害に遭うなど，想定外の事態に対してどのような行動をとったらよいかを考える学習過程を通して，様々な状況を考慮しながら最善の方法で自分の命を守る想定力や行動力を身につけることができた。また，自分の住む地域の防災マップを作成する中で，自分の住む地域の様子を振り返り，地域の実態に応じた避難方法を考えることができた。

―全体の反省・感想・課題

〇今回の取組を通して，学校だけでは児童を災害から守ることは難しいということを改めて感じた。日頃から地域の方々から児童の安全を見守っていただいたり，いざという時は，地域，関係機関と一体となって，行動したりすることで多くの命を守り，お互い助け合うことができる。そのためには，日頃から，学校・地域の防災について話し合ったり，多くの人と顔なじみの関係を築いたりしていく必要がある。
〇今回は，学校主体の取組となったが，今後は，今回立ち上げた学校地域安全推進協議会を中心に，関係団体からも主体的に学校と地域を中核にした防災事業を推進していくことができるように働きかけていきたい。

―今後の継続予定

〇今年度実施した取組は次年度も継続して取り組んでいく予定である。次年度は，地域の青少年育成団体や，父親が組織する「おやじの会」とも連携し，「防災キャンプ」にも取り組んでいきたい。

⑫ 志摩市立国府小学校

プラン名 チーム KOU 防災プロジェクト

プランの対象 小学生・園児
地域住民

所在地 三重県志摩市

―プランの目的・ここがポイント！

小学校・幼稚園・児童館・自治会が合同で研修会や避難訓練等を行い、地域と連携した防災教育を実施することで「自助」「共助」意識の高揚と実践力の向上をめざします。また拠点学年の児童が地震津波対策についての地域学習を行い、その学習成果を発信したり、手づくり防災カレンダー等として全戸(約450戸)に配布したりして、防災についての啓発を試みます。地域と交流しながら楽しく防災学習を進めます。

―プランの概要

・講師を招いての防災研修会　学校職員、幼稚園職員、地域住民対象
・小学校、幼稚園、児童館、自治会合同避難訓練の実施。小学校で開催する防災学習（県教委防災担当者による講座、起震車体験等）への園児、保護者、住民の参加。
・拠点学年（第４学年）での「総合的な学習の時間」における防災学習　地震・津波防災について、見学、体験、聞き取り等の学習を実施し、その学習成果を劇や防災カレンダーとして他学年や地域の皆さんに発信する。

―期待される効果・ここがおすすめ！

・地域の皆さんと一緒に活動する機会を作ったり、地域に発信したりすることにより、学校を中心に地域全体の防災意識・実践力の向上を図ることができる。

―成果として得たこと

・学校の取り組みが、PTA広報での防災アンケートの取り組み・啓発活動につながっていった。
・合同の避難訓練・防災学習は２年目の取り組みになるが、合同避難訓練を自治会の行事として位置づけていただいた。避難訓練・防災学習ともに保護者、地域住民の参加者が増加している。
・拠点学年（４年生）の防災学習は避難場所や避難経路調べをしたり、聞き取りをしたり、地域の方とふれあいながら展開できた。学習した内容を劇で発表したり、カレンダーを作成したりして楽しく活動している。

―全体の反省・感想・課題

・防災学習がマンネリにならないよう計画する。
・地域の防災の核となる消防団とも連携した合同避難訓練、防災学習を計画する
・保護者との連携、家庭防災会議を実施する

―今後の継続予定

・合同の避難訓練、防災学習をさらに地域連携を深める形で継続していく。
・拠点学年での防災学習、カレンダー作りを実施しながら地域への発信を続ける。

⑬ 和歌山大学　防災教育チーム　SAZANKA

プラン名　みんなのまちの防災手帳

プランの対象　初等教育対象者

所在地　和歌山県和歌山市

―プランの目的・ここがポイント！

南海トラフ巨大地震が近々予想されている和歌山に住む私たちだからこそ、和歌山という地域に根付いた防災手帳の開発につとめる。

大学と教育機関との連携をはかる。

―プランの概要

防災手帳をはじめとするオリジナルの防災教材を作成する。

オリジナルの防災教材を使用して、子どもたちを対象に防災授業を行う。

―期待される効果・ここがおすすめ！

子どもたちの防災意識を高めることで、未来につながる防災教育を目指す。

防災手帳を子どもたちと一緒に完成させていくことで、防災に関する知識の定着を図る。

―成果として得たこと

子どもたち向けの、防災教材（防災手帳、防災かるた、防災クイズ）を制作することができた。

特に防災手帳は、書き込み式にする、持ちやすい大きさにする、ページをリングでとめることで、重要なことがあれば、その度に挟んでページを増やせるようにするなど、子どもたちに愛着を持ってもらえる工夫を盛り込んだものにできた。

―全体の反省・感想・課題

防災教材作りに時間をかけてしまったため、
防災授業をあまり行うことができなかった。

今後防災授業を活発に行っていきたい。

子どもたちに楽しんでもらえる防災授業の考案が課題である。

―今後の継続予定

昨年度制作した防災教材を使用して、より多くの防災授業を実施する。

和歌山の中心市街地にある住民交流スペースに子どもたちを集めて、防災授業を実施することで、地域の活性化も図る。

東日本大震災の記憶を風化させないために、継続した取り組みにする。

⑭ NPO 法人大杉谷自然学校

プラン名 豪雨災害被害地からの実践的防災教育

プランの対象 小学校高学年 中学校・一般

所在地 三重県多気郡

―プランの目的・ここがポイント！

豪雨災害被災地である経験を生かした防災教育プログラムを開発する

大台町では平成 16 年と平成 23 年に豪雨災害に見舞われ甚大な被害を受けた。災害直後からその自然の驚異を伝えるため、災害地見学や被災地での聞き取り調査活動を教育プログラムとして提供してきた。

最近は山間地での豪雨災害が増加してきたため、当地での教育プログラムを完成させて、多くの被災地でも実践可能な内容を示したい。

―プランの概要

平成 24 年7月 25 日―27 日の大台町立日進小学校の夏期体験のうち、防災教育として 26 日の民泊先での聞き取り調査と 27 日の災害地見学を行った。この実践活動のために学校との打合せ及び地域の被災者の方との打合せ等も実施した。

平成 25 年 1 月から NPO 法人みえ防災市民会議会の専門家からアドバイスをいただき、これまで実施した防災教育プログラムのブラッシュアップと新規プログラム開発を実施した。

―期待される効果・ここがおすすめ！

被災地で体験プログラムを開発することにより、より実践的で体験者にも追体験しやすい内容を提供することができる。

―成果として得たこと

- 作成したプログラムを一旦、小学校の防災教育にて実施したことから、実際の効果や反応がわかった。その結果、より実践的で効果が上がる防災教育内容を検討することができた。
- 学校側からの提案や、防災の専門家からアドバイス等、外部の批評や助言を入れたことにより、多角的な視点を取り込むことができた。
- 被災経験を生かした、新しいプログラムを開発することができた。

―全体の反省・感想・課題

平成23年の豪雨被災地現場での防災教育プログラムの実施だったため、まだ災害現場が残っており、子どもたちに非常にわかりやすく災害の脅威を伝えることができた。

しかし、今後は急速に復旧工事が進むため、実際現場で災害の脅威を感じることが少なくなる。写真等で記録するとともに、災害発生時の住民避難等の人の動きなども記録し、伝えられる体制を整えるべきである。

―今後の継続予定

今回、グレードアップさせた内容と新しく開発したプログラムを来年度は実際に学校教育現場にて実践していきたいと考えている。また、今回、お世話になったNPO法人みえ防災市民会議とは引き続き連携を保つとともに、三重県内の他の被災地でも防災教育プログラムを展開していただくことを目指し、当地の防災教育事例を発表していく場があれば積極的に利用したいと考えている。

⑮ 秋田理教クラブ

プラン名　忘れない！日本海中部地震の教訓―地震と津波の防災教育―

プランの対象　児童・生徒
地域住民

所在地　秋田県秋田市

―プランの目的・ここがポイント！
①秋田県における地震防災教材の現代化
②秋田県の地震環境に基づいた地震防災教材の改善及び開発

―プランの概要
①小・中学校教員の地震・津波の指導に関する意識調査
②地震・津波の教材用素材収集
③地震防災教材の改善及び開発－日本海中部地震を意識して
　a.断層形成，b.震動，c.液状化現象，d.津波
④イベント実践（小・中学生及び地域住民対象，８回）と授業実践（中学生対象，３回）
⑤改善・開発した教材の評価

―期待される効果・ここがおすすめ！
①実験を中心とした，児童・生徒向けの地震防災教育の教材を改善・開発することで，児童・生徒にとって実感を伴った学習が可能となり，防災教育の効果の向上が期待できる。
②児童・生徒，保護者・地域住民向けの地震防災教育の実践を行うことで，対象となる方々の防災意識を高めることが期待できる。

―成果として得たこと
秋田県の小・中学校教員への意識調査から，地震・津波の指導では「教材・教具の確保」が大きな課題として挙がった。そこで，断層形成，震動，液状化現象，津波についての教材を改善・開発した。
教材例）・断層形成　　小麦粉とココアを用いた断層形成の教材の大型化
・震動　　段ボールとバネを用いた震動説明器
・津波　　塩ビ板と農業用ビニールシートを用いた津波実験装置の改良
イベント参加者へのアンケート調査では，「つなみや，じしんについて，どうすれば，ケガやたてものがこわれないかしらべてみたいです。（小２）」，「理科に役立つと思ったのと，地震がきたときに備えれることが分かった。実験をただやるのではなく，楽しみながらできた。（小６）」，「実際に父が千葉に住んでいて，液状化現象を見てすごかったといっていたので，それを防ぐにはどうすればいいのかなと思いました。（中１）」，「断層の方は興味がもてました。（３９歳）」という感想が寄せられた。また，被害を減らすためにどうすればよいか考えてみようと思ったかという問いに，無回答者を除く９割近くの参加者が肯定的な回答した。

―全体の反省・感想・課題
地震に伴う現象を説明する実験装置の改善・開発するのに留まってしまった。これに加えて，実験書の作成や授業の中に組み込む場合の指導案なども作成することができれば，秋田県の防災教育のニーズに一層応えられたと思う。

―今後の継続予定
地域からの要望があれば，作製した教材を用いて出前授業などで実践するつもりである。

⑯ わがやネット

プラン名 すすめ！かぐてんぼう隊

プランの対象 小学生、高校生、一般

所在地 愛知県名古屋市

―プランの目的・ここがポイント！

大地震発生時において被害を少なくするためには、家具等の転倒防止対策を行うことはとても有効な手段です。本プランでは、その推進を目的に小学生や高校生を対象とした家具等転倒防止対策の講座及び実習を行いました。

―プランの概要

・小学校、高等学校への出前授業の実施
・学童保育への講座及び実習
・一般向けの実践実習

―期待される効果・ここがおすすめ！

子どもたちは、講座及び実習を通して、自分の身は自分で守ること（小学生・高校生）、家族や近所の住民を守ること（高校生）を素直に理解してくれました。子どもたちが家庭に帰って、両親、祖父母などに、家具等の転倒防止対策の必要性を伝えてくれると思います。また、近所の住民にも伝えて、地域への見守りに繋がることを期待しています。

“子どもを主体にする”ことがおすすめです。体験することで、子どもたちは関心を持ち、活き活きとした表情になりました。

―成果として得たこと

・高校生のアンケート（自由記述欄）に、貴重な意見を書いてもらえました。
・学童保育の小学生からは、逆に“教えてもらった”ことが収穫でした。大人とは違った視点の声が参考になりました。
・多くの人たち（教職員・市役所・ＮＰＯ・災害ボランティア・増改築相談員など）を活動に巻き込むことによって、次の展開のきっかけとなりました。

―全体の反省・感想・課題

・複数の学校で出前授業を実施しましたが、事前の授業内容等の打合せや、意見交換が成功のカギを握っていることが分かりました。防災教育に“熱心な学校”と“丸投げ・お任せ・様子見の学校”とでは、成果が全く違います。
・今後の課題としては、
①「防災」の各論である「家具等固定」に関する内容を、学校教育へどのように落とし込めるか、②どの科目で実施するのが有効かなどです。

―今後の継続予定

・今年度、高校２年生を対象に出前授業を行いましたが、次年度は中学生を対象に依頼があり、実施する予定です。
・学童保育は、責任者から継続的に実施するよう依頼があります。
・小学校は、今回の経験を踏まえ、再チャレンジをする予定です。

⑰ 四日市市立中央学童保育所

プラン名 中央学童保育所東海地震防災対策

プランの対象 幼児・小学校低学年　**所在地** 三重県四日市市

―プランの目的・ここがポイント！

防災に関する教材は多くありますが、幼児・小学校低学年を対象にした教材はありませんでした。多くの児童を預かる保育所として考え、地域に特性にあった幼児・小学校低学年の児童にも理解できる教材として絵本を製作することにしました。絵本に関し、ただ配るのではなく「親子で考えてる」を考え、親子参加の勉強会や実際に避難経路を児童主体で非難する訓練を行い子供たちの防災意識の発達と防災技能の向上を目的としています。

―プランの概要

災害時に役立つ、地域の児童（幼児・小学校低学年）にも理解できる絵本の製作を行う。
製作には、保護者・地域住民・行政が一体となり製作を行う。
製作した絵本を使い親子で防災を考え、防災意識及び技能を高める。
知識だけではなく、絵本を使い避難訓練を行い実際に体験する。
実際に避難経路を確認したり、地域の住民に聞くことで安全経路を確認及び変更する。

―期待される効果・ここがおすすめ！

子供達の自主性のある防災意識及び能力の向上。
保護者・地域住民・行政が一体となった児童に対する防災意識の向上。
地域の子供たちにあった教材の開発。
保育所職員の防災意識の向上。

―成果として得たこと

幼児・小学校低学年の児童専用の防災教材の絵本が出来たことにより、子供たちに防災に関する知識及び能力が向上した。
地域住民・保護者・行政が一体となり、子供達の防災について考えた。
親子勉強会を行うことで、親子の防災意識が高まった。
地域を避難訓練することで、地域住民の子供たちに関する防災意識が高まった。
防災絵本が常備されることにより、今後の勉強会・避難訓練の継続に繋がった。
絵本で学んだ知識を持って、避難訓練を行ったことにより、より良い安全避難経路を確認できた。
子供たちに、防災に対する自主行動性が生まれた。
保育所職員の防災意識が向上した。
近隣の学童保育所の防災意識の向上に繋がった。

―全体の反省・感想・課題

全体の感想として、地域児童・保護者・住民の方々に防災教育を通して大きく貢献できたと思います。
反省点として、もう少しスムーズに勉強会や避難訓練ができるようにしたいと思います。
課題として、毎年、継続するために予算の確保と絵本の制度の向上といった点があります。

―今後の継続予定

四日市市に、来任度の絵本増刷のための予算援助の申請中
NPO法人から、来年度の勉強会・避難訓練のための予算援助の確定
実行委員会から、当学童保育所へ絵本及び勉強会等の決定権の移行
学童保育所職員の防災担当者の選任

⑱ 山口県立大学災害ボランティア実行委員会　ぶちボラYP勇気

プラン名　学生による地域をつなぐ防災プロジェクト

プランの対象　地域住民　　**所在地**　山口県山口市

―プランの目的・ここがポイント！

このプランの主な目的は防災豆知識BOOKを通して、防災意識を高め、地域住民と学生、および地域住民同士のネットワーク作りを行うことです。この防災豆知識BOOKは、地域住民との情報交換で得られた防災知識も取り入れます。それを活用して、住民や山口県立大学生に防災の意識啓発を行い、災害時に助け合いが出来るようネットワーク構築します。

―プランの概要

・避難訓練などを通して地域住民との交流を図る
・被災を想定した避難訓練(キャンプ)
・住民に対して防災に関するアンケートの実施
・防災豆知識BOOK作成

―期待される効果・ここがおすすめ！

期待される効果としては、学生が地域とのつながりを形成することができることです。地域にどんな人が暮らしているのかを把握したり、連携することで、もしものときに協働して災害に対応できるのではないかと思っています。そして、防災豆知識BOOKの作成と配布時のプログラム展開により、東日本大震災のことを忘れず、教訓にし、防災意識向上につながることが期待できます。そして、防災意識が向上していくことで、防災行動へ繋がっていくことが期待できると考えています。

―成果として得たこと

成果としては、地域防災向上のための方法を知ったことや今回作成した防災豆知識ＢＯＯＫを今後の活動に生かしていけるということです。防災意識を高めていくには、ただ防災に関する知識を語るのではなく災害が起きた時、自分がどうするべきか考えておくということが必要だと知りました。地域にこの意識を広めるためには、地域の方との関係づくりが大切だと思い今回、サロンや避難訓練への参加することで地域の方との関係をつくることができました。また、地域の方に震災に関するアンケートを行うことで、地域の方の意見も参考にしながら防災豆知識ＢＯＯＫを作成することができました。

―全体の反省・感想・課題

地域の防災意識を高めるということは簡単ではないということを感じました。地域の方との関係づくりのためにサロンや避難訓練に参加したりと段階を踏んでいく必要があるということを学びました。また防災豆知識ＢＯＯＫをつくるとき防災についての知識だけでなく防災について自分自身で考えられるような仕掛けづくりをすることが難しかったです。これからは、この豆知識ＢＯＯＫをきっかけにどう地域の防災意識を高めていくかが課題となります。

―今後の継続予定

私たちは２月末に防災をテーマとしたフォーラムを開催する予定です。このフォーラムには、県外の学生や地域の方に参加して頂きます。防災豆知識ＢＯＯＫをきっかけに防災意識を高めていけたらと思っています。また防災豆知識ＢＯＯＫも今後改善を加えながら活用していきたいと思っています。

① 飯田市赤十字奉仕団

プラン名　郷土にまつわる災害伝承紙芝居の作成と活用

プランの対象　小学生高学年、中学生、地域住民、社会人一般

所在地　長野県飯田市

プランの目的　防災意識の高揚、災害の伝承

対象災害種別　水害（土砂災害）

☆☆☆

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点

土砂災害や浸水が想定される地区の自主防災会等との共催による公演。

―全体の反省・感想・課題

○30 枚を超える描画作業に多くの時間を費やしたため完成が遅れてしまった。
○聞き取り調査からは当時の貴重な話を聴く事ができ、紙芝居の中にしっかりと反映することが出来た。

―今後の継続予定

○完成した紙芝居を使った公演を今後継続して行っていく。
○来年度は「飯田大火とりんご並木（仮称）」の紙芝居製作を行う。

② 伊勢市立大湊小学校

プラン名　地域とともに～津波に備える大湊小学校の防災～

プランの対象　小学生低学年
小学生高学年

所在地　三重県伊勢市

プランの目的　災害に強い地域をつくる、災害を想定した訓練、防災に関する知識を深める、防災意識を高める、災害対応能力の育成

対象災害種別　地震、津波

☆☆☆

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点

大湊町振興会との防災訓練に参加する。
町外（１．６ｋｍ先の宮川浄化センター）への避難訓練を実施する。

―全体の反省・感想・課題

防災への意識の高まりを感じることができた。
総合防災訓練で子どもたちが地域へ発信することができなかったので、今後の課題となった。

―今後の継続予定

今年度の実施内容をもとに防災教育年間計画をよりよいものにしていきたい。そして、子どもたちの防災意識をさらに高めていく。

③ 江東区立第二南砂中学校

プラン名　地域に根ざした防災教育プログラムの作成

プランの対象　中学生
教職員・保育士等

所在地　東京都江東区

プランの目的　災害を想定した訓練、防災に関する知識を深める、技術を身につける、防災意識を高める、災害対応能力の育成

対象災害種別　地震、津波、水害

☆☆☆

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点

本校は東京の下町にあり、河川、運河に囲まれた地域である。地盤も軟弱で液状化しやすい。その特性を踏まえ、総合防災訓練を行う。

―全体の反省・感想・課題

今年度は初めての計画でさまざまな試行錯誤があった。しかし、教職員、生徒は積極的にプログラムに参加し、防災に対する意識が高まった。来年度は継続し、さらなるレベルアップをしたい。

―今後の継続予定

来年度は、さらなるレベルアップを狙い、近隣、地方公共団体を巻き込んだ大規模な演習を行いたい。

④ 能登町立小木中学校

プラン名　自分たちの町を自分たちの手で守ろうプロジェクト

プランの対象　全ての人々（小木地区住民の皆さん）

所在地　石川県能登町

プランの目的　災害を想定した訓練

対象災害種別　地震、津波

☆☆☆

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点

・防災活動がスムーズに進むよう地域との交流を深める。
・山間部の中学校との交流（共助を目的とする）

―全体の反省・感想・課題

・町、海上保安署、地域商店連盟等の協力により、ヘリによる負傷者運搬訓練、避難所設営、炊き出し等さまざまな活動を取り入れた避難訓練を行うことができた。
・中学生の活動が地域に広がり、中学校校区で自主防災組織が立ち上がった。
・中学校が活動の中心となることにより活性化する。

―今後の継続予定

・津波避難訓練の継続実施
・幼、小、中、高、地域が連携した津波防災活動の実施
・共助の思いを育てる活動の継続実施

⑤ 山口県柳井市立小田小学校

プラン名　いつか来る　南海・東南海地震に備えて

プランの対象　本校の全校児童・教職員　　**所在地**　山口県柳井市

プランの目的　自助の心と共助の心を培う。地震や津波、台風などの自然災害の仕組みや特徴を知り、安全に避難できるようにする

対象災害種別　地震、津波

☆☆☆

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点

学校が河口に位置していることから、地震のために起こる津波を対象とする。近隣の防災センターに行き、地震や津波の実験や体験をする。

高専の教授に出前授業をしていただく。

―全体の反省・感想・課題

どの学年の児童も下地がなく、１年目であったため、系統性をもって指導することができなかった。今後、続けて指導していく中で、系統性のある防災教育計画を作る必要があると感じている。

―今後の継続予定

・防災訓練前後の各学級での指導の徹底及び終了後の教師による振り返りの会の実施。

・６年間を見通した系統性のある小田小学校防災教育計画の作成。

⑥ 社会福祉法人 大乗福祉会 二之宮保育園

プラン名　自作絵本による防災教育

プランの対象　幼児・保育園児・幼稚園児、小学生低学年　　**所在地**　群馬県前橋市

プランの目的　絵本（地震）・紙芝居（地震・火災）の製作による防災意識の向上

対象災害種別　地震、火災

☆☆☆

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点

絵本や言葉などで大人から一方的に伝えられる防災意識ではなく、子ども自身が考えて作った防災絵本や紙芝居を使って、防災教育を行うこと。また、それを保護者に伝えて、一緒に楽しむこと。

―全体の反省・感想・課題

子ども達が作った絵本や紙芝居の読み聞かせをすると、通常の絵本等よりも親しみを感じるのか、楽しそうに集中して聞いている子どもが多く、防災のイメージや状況に合わせた対応の仕方を想像しやすいようであった。

―今後の継続予定

とても効果があると感じたので、今後も防犯・防災・安全対策・園内のルールに関する紙芝居や絵本を子どもたちと一緒に作成していきたい。

⑦ 八王子市立椚田小学校

プラン名 地域とともに、安全対策を！

プランの対象 本校の児童（1～6 年生）　**所在地** 東京都八王子市

プランの目的 地域防災訓練を通じ、地域での防災意識を向上させる。

対象災害種別 地震

☆☆☆

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点

地域運営学校が主体となり、防災訓練を実施・計画する。

―全体の反省・感想・課題

最初は地域・保護者を中心とした防災訓練を考えたが、広範囲にわたるので無理と判断し、本校児童を中心とした防災訓練に変更した。将来は、もう少し範囲を広げた防災訓練を実施したい。

―今後の継続予定

・２月　９日（土）→総合防災訓練本番
・２月２８日（木）→総合防災訓練の反省とまとめ

「避難訓練」担当の先生の話を真剣に聞いています

⑧ 東京都葛飾区立常盤中学校

プラン名 常盤中学校防災教育プロジェクト

プランの対象 常盤町会、地域消防団、生徒、教職員　**所在地** 東京都葛飾区

プランの目的 危険の予測、回避、地域安全への貢献

対象災害種別 災害全般

☆☆☆

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点

中学生を「地域の力」として育て、生徒をとりまく地域の方々(保護者、PTA、町会、地域消防団)と連携し、防災への意識を向上させる。

―全体の反省・感想・課題

「助ける人から助けられる人へ」をテーマにまずは自らの命を守り、そして他者の力になる「自助・共助」の意識を育てることができた。

―今後の継続予定

・毎月の避難訓練において、状況や場面の設定を工夫し、より実践的な訓練を実施する。
・地域防災訓練で行った内容を、生徒に３カ年かけてすべて体験させる。

⑨ 葛飾区立綾瀬中学校地域応援団

プラン名　災害に耐える力を育てる活動

プランの対象　中学生ボランティア、地域の方々

所在地　東京都葛飾区

☆☆☆

プランの目的　学校と地域、関係機関との連携を深める

対象災害種別　直下型地震の発生を想定した災害

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点

学校と地域との橋渡しを「綾瀬中学校地域応援団」が行い、地域と連携した防災教育を推進する。

―全体の反省・感想・課題

ミーティングや地域の防災訓練に生徒ボランティアが参加することで、中学生と地域の方々とのふれあいの場が増えた。

―今後の継続予定

地域の防災訓練、学校における防災減災に向けた取り組みとの関連させて、生徒と地域が一体となって災害に強い町作りを進めるためにも、避難所運営会議との連携の元に、毎年同じ時期に定期的に防災減災の取り組みを継続させ、質の向上を目指したい。

⑩ 九十九里町立片貝幼稚園

プラン名　まもろう！ぼくのいのち、わたしのいのち

プランの対象　幼稚園児、保護者、教職員、未就園児

所在地　千葉県九十九里町

プランの目的
- 幼稚園教育要領の各領域と防災教育を関連付け、総合的に指導する。
- 園児・保護者の防災意識を高め、いざという時落ち着いて行動・判断できるようにする。
- 職員の役割分担をするとともに、保護者の協力を図る。

☆☆☆

対象災害種別　地震、津波

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点
- 海岸から近いため、津波想定の避難訓練の実施
- 園児に恐怖心を与えないように配慮し、防災意識を高める指導を考える

―全体の反省・感想・課題
- 保育所との合同避難訓練・親子防災教室など経験することで防災への意識は高くなってきた
- 防災訓練が形式的なものとならないよう注意する
- 津波時の避難場所に不安もある。

―今後の継続予定
- 指導計画の中の防災教育の位置づけを再考する
- 防災の教材として制作した人形劇を改良し地域の幼稚園
- 保育所の子にも見てもらえるようにする。

⑪ 熊本県立熊本支援学校

プラン名　障がいのある子どもたちの防災・防犯
～特別支援学校における取組～

プランの対象　本校児童生徒、職員、保護者

所在地　熊本県熊本市

プランの目的　危機管理意識向上、諸対応経験、円滑な情報管理を目指す。

対象災害種別　部外者による犯罪被害

☆☆☆

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点
・市中心部に位置し、外部からの出入りが多い。
・障がいのある児童・生徒を守るために、暗号や声かけの方法などの対応方法に関して工夫していく。さらに自分で身を守るための学習も工夫していく。

―全体の反省・感想・課題
より安全に安心な学校生活のためには、起きた物事に柔軟に対処できる職員の危機管理意識や物事へ対処する経験を育成すること、円滑な情報の連絡のための要点を押さえたデータや資料が必要だということが再確認できた。

―今後の継続予定
・各対応訓練の継続実施。
・危機管理マニュアル、聞き取りシートの見直し改善。
・施設内設備、備品等の配置確認と安全マップの随時更新。

⑫ 南阿蘇村立中松小学校

プラン名　阿蘇五岳のふもと中松～火山との共存～

プランの対象　小学校（高学年）

所在地　熊本県南阿蘇村

プランの目的　自助地域を知るとともに、自然との共存

対象災害種別　地震、水害、火山噴火

☆☆☆

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点
阿蘇の地域の自然や歴史を調べることを通して、自然のすばらしさとともに災害についても向き合うことの重要性を訴えるよう心がけました。

―全体の反省・感想・課題
阿蘇の大自然の恵みに感謝しつつも自然災害とも紙一重の所に住んでいることを自覚できた。今後、学んだことをより多くの場所で、多くの人々に発信していきたい。

―今後の継続予定
学んだことを多くの場所で演劇により訴えるとともに、紙芝居にまとめて、これからもずっと語り継がれていけるよう取り組んでいきたい。

⑬ ＮＰＯ法人大沼・駒ヶ岳ふるさとづくりセンター

プラン名　防災だヨ！温泉集合

プランの対象　地元東大沼地域の住民、親子

所在地　北海道七飯町

プランの目的　どのような災害にしても、避難場所として温泉を活用していただくこと。

対象災害種別　火山噴火

☆☆☆

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点

・担当ＮＰＯが普段、主催している自然体験活動の内容を盛り込み、火おこしや空き缶でごはんを炊く体験を入れた。
・有事のための自立型エネルギーに関心が集まってきたので、電気を使わない冷蔵庫(非電化冷蔵庫)づくりワークショップを盛り込んだ。

―全体の反省・感想・課題

・ＮＰＯが通年開催している自然体験活動の参加者の来場は多かったが、地元の小学生の参加が思いのほか少なかった。
・行政や町内会との連携は少しずつとれるようになった。

―今後の継続予定

・地元小学校と連携しながら進めていけたらよい。
・地元消防団との連携には至らなかったので、今後は関係づくりに努めたい・６年間を見通した系統性のある小田小学校防災教育計画。

MEMO

防災教育チャレンジプランに期待する

今回の東日本大震災での被害の出方とそれ続く被災地での回復の試みは、21 世紀前半に発生が確実視されている東海・東南海・南海地震や首都直下地震やのような広域にわたる巨大な地震災害を乗り切る上での大きな教訓を提供してくれています。こうした災害に立ち向かう主役は 1980 年以降に生まれた若い人たちです。若い人たちが、自分自身を守り、お互いに助け合っていける力を育んでおくことが、この国の将来にとって不可欠です。これは学校だけの仕事ではなく、学校・地域・家庭が協力してさまざまな試みを重ねていくことが大切です。

今回の被災地には防災教育チャレンジプランの実践団体が 11 ありました。しかし、今回犠牲者が出ることは一人もありませんでした。その一つである釜石東中学校の例に代表されるように、日頃からの防災教育の有効性が証明され、その価値が見直され、防災教育に対する関心の高まりが見られています。こうした素晴らしい成果は、若い人たちの防災に関わる能力の向上を図るための素晴らしいプランをたくさん集め、それらを多くの人々に紹介する「防災教育チャレンジプラン」の取組みの重要性を再確認させてくれました。

10 回目を迎える今年もプラン募集にあたっては、特別枠としてジオパーク枠を設けました。我が国は変動帯に位置し、地震や火山活動が盛んです。同時に美しい景観と豊かな自然を生み出しています。その中心にジオパークの活動があり、日本ジオパーク協会のご協力を得て、今回からジオパーク枠を設けることを決定しました。また一つでも多くの団体に「防災教育の実践」を始めていただこうという意図で昨年から始めた「入門枠」を今年も継続することにしました。

その結果、一般枠 32 団体、特別枠８団体、入門枠 21 団体、合計 61 団体の応募をいただきました。どれも素晴らしい内容でしたが、予算の制約があり、今回はその中から一般枠 16 団体、特別枠１団体、入門枠 10 団体のプランを選ばせていただきました。防災教育の内容をできるだけ多様にできるプラン、いろいろな場所でできるだけ幅広い層が関われるプランへと成長してほしい「たね」を重点的に選ばせていただきました。選ばれた各団体はいろいろな面で「チャレンジ」し、今後の防災教育を推進する上での共通の資産を増やすために努力をしてください。

今回選ばれた皆さんのプランが今日をスタートとして、１年間の実践を経て大きな実を結び、来年２月の活動報告会に成長した姿で戻ってきてくださることを期待してやみません。

防災教育チャレンジプラン実行委員長
京都大学防災研究所巨大災害研究センター 教授
林　春男

東日本大震災により未曾有の被害が発生したことを教訓として、今、全国で大規模地震・津波対策の大幅な見直しが検討されています。特に津波対策では、海岸堤防などの防災施設によって、できるだけ被害を軽減するとともに、住民避難を軸に、避難施設、土地利用などを組み合わせた総合的な対策が必要となっています。

このように様々な対策によって「命を救う」防災をめざしますが、最も重要なことは、一人ひとりが主体性を持って避難するということにつきます。自然災害に関する知識、各地域の土地の成り立ち、災害の危険性や各種災害への対応方法を学び、発生する災害を自分に置き換えて考え、行動するようになるということが重要であり、行政、学校、家庭、各種の団体や地域の連携など様々な形で、これらの防災教育に取り組んでいくことは最も大事な防災対策となります。

「防災教育チャレンジプラン」の取組は、皆様のご支持を得て、11 年目となりました。今回選ばれた一般枠 16 団体、特別枠 1 団体、入門枠 10 団体の皆様には、大いにご活躍いただき、この取組のさらなる発展に貢献していただくことをご期待申し上げます。

防災教育チャレンジプラン実行委員
内閣府政策統括官（防災担当）付 参事官（調査・企画担当）
藤山　秀章

MEMO

2013年度実践団体の紹介

【1】南阿蘇村立久木野中学校

プラン名 「自らの命を守り抜く」防災教育

応募部門 中学校の部　　**所在地** 熊本県南阿蘇村

☆☆☆

―目的・特徴等

本校は自然豊かな環境にある半面、昨年の九州北部豪雨のように、自然災害と隣り合わせの環境でもあります。そこで、豊かな自然と共生しながら、「想定外」の災害から自分の命を守りぬくために、地域の関係機関と連携しながらの避難訓練や、自らの命を守り抜くための防災教育に取り組んでいきます。

・避難訓練の工夫
・地域の特性を考えた防災教育
・学校安全委員会の充実。

―団体紹介

本村は阿蘇カルデラの内側に位置し、国立公園に指定されています。北には噴煙を上げ続ける中岳をはじめとする阿蘇五岳、その下には名水百選にも選ばれている白川水源を源流とする一級河川の白川が流れる自然豊かな環境にあります。本校は、全校生徒５３名の小規模校です。生徒は小学校から同じメンバーで生活しており、明るく素直です。生徒の主体性を重視するため、8つの縦割り班を構成し、３年生のリーダーを中心に総合的な学習の時間の探究活動はもとより、給食、清掃、様々な行事などを学年の枠を超えて取り組んでいます。時折、グラウンドや裏山に野生のサルが出現し、和ませてくれます。

【2】くにたち地域外国人のための防災連絡会

プラン名 くにたち地域外国人のための防災対策

応募部門 大学・一般の部　　**所在地** 東京都国立市

☆☆☆

―目的・特徴等

在住外国人が主体となって作成した防災メモ、ステッカーや防災マップを使って訓練し、また日常の生活での活用をはかる。行政，大学と協働して災害時通訳ボランテアを募集、育成に努めたが十分ではなかったので今後も継続する。

今年度のプランの特徴

災害時弱者となり易い高齢者、幼児用の防災ステッカーを作成する。やさしい日本語で書いて外国人にも使用可能とする。やさしい日本語の習得、近隣のグループ及び外国人キーマンとの交流、防災教育プログラムの作成などが今年度のチャレンジとなる。

―団体紹介

国立市には約１４００名強の外国人の方が長期、短期あわせて在住している。

本連絡会は国立国際交流グループ、公民館、有志の外国人によって構成し、公民館を平常時のみならず、災害時にも外国人の情報収集の拠点と位置づけ、災害時に備えて外国人、国際交流グループ、公民館の共同参画で防災訓練、防災講座等防災に関する取り組みを２００９年12月より行なっている。 これらの活動を通じて、地域で孤立しがちな外国人を少なくするため、平常時から日本住民と外国人住民の交流を促進し、外国人がより安心、安全に過ごすことができる支援体制を構築する。

【3】仙台市立南吉成中学校

プラン名 南吉成中学校と地域が協働する防災教育活動プラン

応募部門 中学校の部、大学・一般の部

所在地 宮城県仙台市

☆☆☆

―目的・特徴等

東日本大震災では防災・減災等に関する様々な課題が露呈し、その解決に向けた実践的な防災教育が必要かつ重要である。本校では中学生が主導する地域防災訓練を実施することで、現在および将来を含めた地域防災の担い手を育成し、災害時の率先行動者を育み、住民を巻き込む教育実践を目指している。さらには、市内の被災状況と現況を知り、復旧・復興に向けた支援活動を行い、奉仕的精神と自己有用感を育成する。これらの実践により、大震災の教訓から防災・減災文化の構築と継承の在り方についても追究していく。

―団体紹介

本校は全校生徒３２０人で、普通９、特別支援２の計１１学級である。大震災では校庭の法面崩落やプールに被害を受けて、現在も復旧工事が続いているが、仙台市西部の丘陵地域に位置しているために津波被害は受けていない。今年度からは、津波被害を受けた沿岸部農家の復興支援として夏と秋に「農家に弟子入り体験」や、避難所での炊き出し訓練のために校内・炊き出し調理コンテスト、被災地・仙台の復興シンボルイベントである「仙台七夕」と「光のページェント」にて清掃奉仕活動を行っている。次年度にはさらなる防災教育の拡充を図ることにしている。

【4】アトリエ太陽の子

プラン名 絵画を通じた東北支援　「命の一本桜」プロジェクト

応募部門 保育園・幼稚園の部～大学・一般の部

所在地 兵庫県神戸市

☆☆☆

―目的・特徴等

被災地神戸から東北被災地の子ども達に絵画作品等をお送りする事で勇気、元気、希望をお届けする。

東北の学校等で絵画出張授業を行う事で、心の癒し、解放、達成感を得てもらい、笑顔でいっぱいのひと時を過ごしてもらう。完成作品は行事や地域イベントに活用して頂き地域の方々への活力へと繋がる。

兵庫県内のイベントでは東北被災地の事を子ども達に語り聞かせ、絵画を通じて「人を思いやる心」「命の尊さ」を育んでもらう。

―団体紹介

18年前の阪神淡路大震災の激甚地区、神戸市東灘区を中心に13教室、幼小中高生まで通う造形絵画教室。震災で愛しい生徒2名が御家族共に犠牲となりました。震災を風化させない為、6434名の尊い命の事、助け合いの心、親子の愛の深さを震災後に生きる子ども達に伝えたく、8年前から絵画を通じた防災活動に取り組み、新潟、スリランカ、四川など国内外の被災地の子ども達に絵画を届ける活動を続けています。2011年東日本大震災以降は翌月の4月から半年毎に（計4回）継続した絵画を通じた支援活動を続けています。

【5】飯田市赤十字奉仕団

プラン名 郷土にまつわる災害伝承紙芝居の作成と活用

応募部門 中学校の部、大学・一般の部

所在地 長野県飯田市

☆☆☆

―目的・特徴等

2012年度から地域防災をテーマに作品を製作（三六災害）してきたが、2013年度は「飯田大火とりんご並木（仮称）」と題した作品を製作し、大火の恐ろしさの伝承と、地元中学生の提案から始まったりんご並木にこめられた復興への想いやこれまでの取り組みを紙芝居とすることで、防災意識の啓発及び東日本大震災の復興への一助としたいです。

―団体紹介

平成12年から紙芝居を始め、現在は２班11名が活動しています。

毎年新たな作品に取り組み、自ら脚本、絵の制作をして上演しています。　完成した作品は「日本の赤十字」のように赤十字の歴史や思想の普及を目的にしたものや、地元に伝わる民話を題材にしたものが中心で、小中学校や福祉施設のほか県内外にも出かけて上演しています。　特記すべきは新聞紙程の大判に描いた絵を使い（大会場ではプロジェクター）、登場人物の声を全員が分担しあい、音響効果も交えて上演することで見ごたえ十分です。

【6】大船渡市立吉浜中学校

プラン名 学び・つなぎ・伝える・キッピン（吉浜）げんき隊

応募部門 中学校の部

所在地 岩手県大船渡市

☆☆☆

―目的・特徴等

【目的】
- 奇跡の集落と言われる吉浜地区を生徒が誇りに思う学習の実施
- 地域の方々から当地区の歴史を学び、地域を含めた防災教育の実施
- 教育活動の様子をブログで発信

【特徴】
- 福岡県大野城市の中学生との交流事業を、全校生徒を対象として実施
- 明治２９年の三陸大津波を機に地域全体が高台移転を実施した。現在に至るまでの様子を文化祭の演劇で発表
- 昭和の津波記念碑を依然あった場所に戻し、その周辺を平成の津波記念公園とする活動を地域と共に推進。

―団体紹介

学区は大船渡市と釜石市の境にあり、陸中海岸国立公園の一部であり、自然環境に恵まれている。吉浜湾を臨む山間地に約４８０世帯１５００人が生活する。主産業は養殖漁業等の水産業であるが、近年は市内事業所等へ勤める保護者も多い。全校生徒の７割が３世代同居の家族構成である。

東日本大震災による被災は、防潮堤の損壊、田畑の冠潮、漁船・漁具の流出等である。また、勤務先の被災等による解雇や失職等で影響を受けた保護者も多数いる。本校は各学年単学級の計３８名の小規模校である。あいさつと学び合い、そして復興教育に力を入れている。

【7】糸魚川市立　大和川小学校

プラン名　大和川小発！ジオパークの海と向き合う地域防災教育

応募部門　小学校低学年の部、小学校高学年の部

所在地　新潟県糸魚川市

☆☆☆

―目的・特徴等

糸魚川市が世界に誇る自然環境(ジオパーク)は、地域の歴史であり、宝であり、生活環境そのものである。「雄大で美しい海に面したジオパークとしての大和川地域」に、児童が地域住民と共に生きていく上で、地域の自然災害の現状やその対策の方法を、児童、PTA、地域住民が協力・連携して学び合い、得た成果や課題を共有していく必要がある。

この取組は「防災教育とジオパーク」の２つを関連付けた「防災教育プランの実践例(海、津波編)」としての提案になると考える。

―団体紹介

当校は海沿いに校舎が立地している。児童は潮風を浴びて登校し、窓から雄大な海を見渡している。総合学習で3年生は地域探検を行い、海沿いの生物を調べた。4年生は海洋高校の海洋丸に乗船し、海の水深を調べた。このように児童はジオパークに親しみながら学校生活をしている。反面、地震に伴う津波が心配されるため、津波を想定した防災教育を行う必要がある。また、県より「新潟県防災教育プログラム(津波編)作成のモデル校」の指定、市より「糸魚川市防災教育推進校(津波対応)」の指定を受けたことも後押しとなり、津波に関する避難訓練、講話など、実践を重ねてきた。

【8】千葉県立千葉聾学校

プラン名　伝える・伝わる・伝え合う防災教育
～コミュニケーション力の向上による減災への取り組み～

応募部門　保育園・幼稚園の部
～大学・一般の部

所在地　千葉県千葉市

☆☆☆

―目的・特徴等

自助の視点のもと、授業の中で学んだことや体験したことをまとめて表現するなどの経験を通して伝わる経験をする。火災や地震を想定した校外での総合訓練を地域と一体となって取り組み、共助の観点から伝える・伝え合う防災意識を高める。

防災に関して、聾学校・淑徳大学・地元自治会で共有した情報発信を積極的に行い、聴覚障害に応じた防災時の情報伝達手段の用具の開発と活用に取り組み、公共の施設で活用されることを目指す。

―団体紹介

本校は、幼稚部・小学部・中学部・高等部（普通科、産業技術科、理容科）・高等部専攻科（理容科）を設置し、支援部と寄宿舎を備えた総合的な聴覚障害教育のための学校です。併せて「きこえとことばの相談支援センター」を開設し、県内全域を対象とした聴覚障害教育のセンターとしての役割も担っています。保護者や関係機関等との連携・協力のもと、全職員の創意とチームワークにより、どの子も夢や希望を抱き、楽しく生き生きと活動する、活力に満ちた信頼される学校づくりに努めています。

【9】伊豆半島ジオパーク推進協議会　（※特別枠）

プラン名　伊豆半島ジオパーク・大地の成り立ちを知って備えるんだ！

応募部門　小学校高学年の部、～高等学校の部

所在地　静岡県伊東市

☆☆☆

―目的・特徴等

美しい自然は災害の語り部でもあります。自然のなりたちを知ることで、自然を楽しみながら、自らの住む土地でどのような災害が起こるのか知ることもできます。

一方、特に大規模災害については、発生頻度も低く、自然からおおまかな現象を読み取ることができても、実際に生じる被害にまで結びつけるための正しいイメージを持つことは困難です。

本プランは、自然を読み取る、実験やイラストで正しいイメージを持つ、ことを目的とした防災教育プログラムを開発することを目的とします。

―団体紹介

伊豆半島の13市町、各種団体、教育機関などからなる協議会です。大地のこと、大地の上に育まれた自然や文化のことを楽しみながら学び、観光に防災に生かしていく活動を行っています。

協議会で育成した「ジオガイド」は学校の出前授業などにも参加し、大地の成り立ちを通じ自然災害・防災について伝えています。また、観光施設などでもフィールドワークやキッチン火山実験などを行う「夏休み火山教室」などを開催しています。

【10】気仙沼市立階上中学校

プラン名　『自助・公助』

応募部門　中学校の部

所在地　宮城県気仙沼市

☆☆☆

―目的・特徴等

本年度のテーマは「自助・公助」です。災害についての正しい知識や理解，災害発生時・後に必要とされる判断力・技能を身に付けると共に，公的機関の役割やＮＰＯ等の活動内容などについて学習します。さらに，様々な状況下で地域の方々と避難訓練を行ったり，災害時に「公的機関の支援までにできること」という条件のもとで避難所設営・運営訓練等に取り組んだりする予定です。また，地元の復興に向けてできることを考えていきます。

―団体紹介

気仙沼市にある階上地区では，東日本大震災による犠牲者が２００人以上，被災家屋は地区の約６７％にのぼりました。本校の防災学習は「私たちは未来の防災戦士」をテーマに平成１７年度から始まり，今年で９年目となります。震災の反省を踏まえ，現在は「自助」を基盤に「自助」「共助」「公助」をテーマとした防災学習を１年ごとに実施し，３年間で１つのサイクルにすると共に，「知る・備える・行動する」を視点とした実効性のある防災学習に取り組んでいます。学校を起点とした地域の防災意識の更なる高揚や，将来の防災リーダーとしての資質や能力の育成等に大きく力を入れています。

【11】上之郷小学校

プラン名　すすんでやりぬく上之郷の子プロジェクト

応募部門　小学校低学年の部～小学校高学年の部

所在地　岐阜県可児郡

☆☆☆

―目的・特徴等

「自分の命は自分で守る～その命は誰かを幸せにできる～」

学校ではどんな防災教育を始めるとよいのか、家庭が行うことは何か、地域にできることは何か、また、地域・家庭・学校が力を合わせ子どもたちをどのように育てるとよいか等、新たに生み出したり、考え続けたりしなければならない課題が学校教育の中に浮上してきている。地域・家庭・学校がそれぞれ担うこと、互いが力を合わせることを模索し、防災教育推進地域となるべく、その実践を始めた。

―団体紹介

上之郷地区は、は国道21号線沿いの平地と山間部で構成されている。平成２２年７月、平成２３年９月と２年続きの大雨のために多大な被害を受けた。上之郷地区住民には、過去の自然災害の伝承・記憶は伝えられていなかった。しかし、百年に一度と言われる大雨が二年続き、被害が連続する事態に、「なんとかしないと」という思いを地域住民が持ち始めた。上之郷小学校も校地内に土砂が流入する事態になり、子どもたちが生き抜くことができる力をつけていこうと、防災教育に本気で取り組み始めている。

【12】みどりが丘小学校　学校支援委員会　環境整備部

プラン名　みどりが丘小学校サバイバルキャンプ！

応募部門　小学校低学年の部～小学校高学年の部、大学・一般の部

所在地　千葉県八千代市

☆☆☆

―目的・特徴等

目的

家庭にある物や、身近にあるものを利用して、一日避難生活をしてみます。

家庭や自治会での防災知識向上と、避難しなくても自宅でできる避難生活を体験考えていく。１日避難生活を体験することで、災害時のシュミレーションを行う。

特徴

身近にある日用品による、避難生活によって、ノウハウの蓄積と避難所に避難しなくても生活できるプログラム作成を目指す。

―団体紹介

開校３年目を迎えた新興住宅地域であり、まだ学校の周りがやっと家が建ち始めた地域である。また、比較的年齢層が若い街であるために、地域とのつながりが薄い街でもあります。

そのため、この避難キャンプを通して、地域・学校・企業などと連携ができる体制をつくるとともに、学校を中心として支援体制の受け皿ができるように、「学校支援委員会」（来年度サポートチーム）が昨年から立ちあがり今回の企画を行うことになりました。

【13】高知県立室戸高等学校

プラン名 「ジオ学で防災教育を」

応募部門 高等学校の部　　**所在地** 高知県室戸市

☆☆☆

―目的・特徴等

本プランでは、生徒が地域住民とのコミュニケーションの中で、既存のハザードマップをより有効に利用できるように、住民一人一人に合わせた避難経路や減災のための計画作りを行う。室戸市は、世界および日本ジオパークネットワークに加盟しており、プランを実行するために人材やノウハウを国内外で共有することができる点が特徴である。すでに、室戸高校は日本ジオパーク全国大会において、岩手県の高校生とも交流しており、この知識と経験を活かしたい。

―団体紹介

高知県立室戸高校では、室戸ジオパークや地域住民と連携し、選択科目として「ジオパーク学」を平成23年度より開講している。この学習は、地域の地質遺産や文化遺産、そして観光や減災への活用を目的としている。25年度からはジオパーク学習を中学校ー高校を連携させたキャリアアップ教育を実施予定である。ジオパークは生徒に地震や津波の科学的な教育だけでなく、地域学習や防災学習の視点があり、本校としては室戸型の防災学習の構築が可能であると信じている。本プランは、これまでの学習を強化・発展させて実施するものである。

【14】社会福祉法人　大阪市鶴見区社会福祉協議会

プラン名 福祉避難所運営訓練―災害救助法の活用を目指してー

応募部門 大学・一般の部　　**所在地** 大阪府大阪市

☆☆☆

―目的・特徴等

災害救助法が、避難所の設置・運営に当たって災害時要援護者にどこまでの配慮を可能にしているのかを検討しながら、災害時において最大限の支援が行えるような体制づくりを目指します。

具体的には、東日本大震災における福祉避難所運営の体験談をお伺いし、実際に、災害時要援護者が避難をすることを前提とした福祉避難所運営訓練を実施するとともに、地域や事業者が災害前にどのような備えをしておくべきなのかを専門家を交えながら考えていきます。

―団体紹介

鶴見区社会福祉協議会（鶴見区社協）は、社会福祉・保健・医療などの関係者、および区内の各種団体が集まって構成されている民間の福祉団体です。「安心して暮らせるまちづくり」を目指して各種事業を推進し、地域サービスの向上に取り組んでいます。ボランティアビューローや地域包括支援センターも法人内にあり、連携しています。

これまでの防災教育としては、災害シンポジウムを開催したり、各地域が開催する防災訓練で、防災ゲームや段ボールベッドの制作をしたりして、災害時のことを想定して考えていただくきっかけ作りをしています。

【15】九十九里町立片貝幼稚園

プラン名　まもろう！ぼくのいのち、わたしのいのち～

応募部門　保育園・幼稚園の部　　**所在地**　千葉県九十九里

☆☆☆

―目的・特徴等

・幼稚園教育要領の各領域と防災教育を関連付け、引き続き総合的に指導する。
・近隣の幼稚園、保育所や未就園の子ども達に自作教材の人形劇を見てもらい、地域の子にも防災に関心を持ってもらう。
・2012年チャレンジプラン実施の千葉県立東金支援学校さんのご指導の下、生徒さんが取り組んでいる防災の替え歌を活用させて頂き、園児向けの振付を考え多くの子ども達に広げ防災意識を高める。
・園児といっしょに防災に関する教材製作をする。

―団体紹介

・昭和３５年創立。当初より３年保育を実施し、平成２１年より預かり保育を始める。
・遊びを通して子どもが周囲の環境と主体的に関わる教育を進めている。保育所、小学校、中学校と連携し防災教育に取り組んでいる。

幼・小・中の職員合同研修をおこない、また、中学校の防災公開研究会では園児の公開保育や中学生といっしょに屋上への避難を経験した。

【16】市原市立白金小学校

プラン名　地域とともにすすめる白金防災教育
～外国人にもわかる「防災行動マニュアル」の作成～

応募部門　小学校低学年の部
～小学校低学年の部　　**所在地**　千葉県市原市

☆☆☆

―目的・特徴等

家庭と地域とともに行う防災教育・訓練により、災害時(地震・津波風水害など)の基本的な行動・知識を身につけることを目的とする。学校と地域が連携した防災訓練を継続するとともに、家庭・地域住民が活用できる「携帯用防災行動マニュアル」を作成する。同時に外国人向け(英語・タガログ語・スペイン語・ポルトガル語等)の翻訳版を作成する。家庭内で母国語に翻訳することにより、防災意識を高めたい。

―団体紹介

本校は臨海工業地域に隣接しており、東日本大震災では学校が避難所となった。これまでも地域が自主的に防災訓練を進めてきたが、23年度より学校と合同で防災訓練を実施している。近くに高台はなく、学校が防災拠点としての役割を担う。24年度には児童と保護者が考えた「防災標語」をもとに「白金防災トランプ」を作成し、防災意識を高める取組をしている。本校は、外国にルーツをもつ児童が４分の１(９カ国)ほど在籍しており、地域に住む外国人も多い。日本語の習得が十分でない外国人への防災教育・連絡をどのようにするか等が課題である。

【17】港区立お台場学園　港陽中学校

プラン名　私たちが守る地域　お台場

応募部門　中学校の部　　**所在地**　東京都港区

☆☆☆

―目的・特徴等

目的

〇お台場は、昼間多くの大人が仕事でお台場の外に出ているため、中学生も地域防災の担い手として活動することが、期待されています。そこで、中学生全員で構成する「お台場学園防災Ｊｒ．ティーム」を組織し、災害発生時に、適切に活動できるよう日常的に訓練を実施しています。

特徴

〇訓練は、食糧班、設営・運搬・誘導班、救護・援護班、消火班に分かれて行い、毎年の港区総合防災訓練では、運営者として各コーナーを担当し、参加者にＡＥＤの操作を説明したり、炊き出しを行ったりします。

―団体紹介

東京都港区のお台場にある中学校です。平成８年度、にじのはし幼稚園、港陽小学校とともに同一敷地内に開校しました。平成２２年度からは小学校と組織を統合し、小中一貫教育校になりました。

校舎の前には砂浜が広がり、海を生かした環境学習に力を入れています。また、平成２０年度より、地域社会への貢献を視野に入れた防災教育を取り入れています。

東日本大震災の際には避難所となり、１０００名を超える方々への支援をさせていただきました。

避難所運営での防災Jr．ティームの活動が評価され、東京消防庁や港区の表彰を受けました。

MEMO

【１】埼玉県立日高特別支援学校

プラン名　日高特支　防災意識向上計画はじめのいっぽ！

応募部門　小学校低学年の部
～高等学校の部

所在地　埼玉県日高市

☆☆☆

―目的・特徴等

本校は肢体不自由特別支援学校ゆえに、医療的ケア、排泄、摂食指導等、既存の防災対策では困難な面を多く抱えている。児童生徒の命を守るためにはまず教職員・保護者の意識を高めることが必要となると考えている。家庭用の防災ガイドブックと、教職員用の携帯版マニュアルを作成予定である。他に災害への意識を高めるような講演会や体験会を実施し、本校独自の防災教育を作り上げていく。

―団体紹介

本校は埼玉県西部に位置し、開校29年目の肢体不自由児特別支援学校である。児童生徒数は111名、教職員は115名の中規模校である。東日本大震災の後、当時の校長が主体となり防災マニュアルを作成したが、検討事項が多く残されていたこともあり、今年度安全部が主体となってマニュアルの全面改訂（正規版、教職員版、家庭版）を行った。それと同時に避難訓練の工夫（緊急地震速報を利用したショート訓練）や非常食の試食会、職員対象のアンケート等を行い、本校に関わる全ての人の防災意識を高めるべく日々取り組んでいる。

【２】高知県須崎市立新荘小学校

プラン名　『災害は忘れた頃にやってくる！』

応募部門　小学校低学年の部
小学校高学年の部
大学・一般の部

所在地　高知県須崎市

☆☆☆

―目的・特徴等

本校は県の予想津波高によると、５ｍから１０ｍの中に入ります。東北地方大震災から1年10カ月が経ち、保護者や地域の関心も少し薄れがちになっています。そこで、子どもの命を守る手立て・取り組みを学校から地域へ発信していくことが求められています。今回のチャレンジプランでは、学校の取り組みを地域ぐるみの取り組みにまで高めていくことを目的にしています。

―団体紹介

本校は、須崎市内の中心部から少し離れたところにあり、すぐ後ろには山があります。須崎湾が近くにあるけれど、地理的には避難するのに適した場所にあります。来年度の本校児童数は71名と小規模です。児童相互の仲は大変良く、家族的な雰囲気のする学校です。また、本校は地域のバックアップが非常に強く、各地区、各地区にある自主防災連絡協議会、学校と歩調を合わせて動いてくれる新荘地区住民会議の皆さんが、子どもたちのためとあれば積極的に係ってくれます。このように学校全体で「いざ！」の時には動く機動性に富んだ学校です。

【3】特定非営利活動法人よかっぺいばらき

プラン名 地域円卓会議と市民参加で災害時レシピを開発しよう！

応募部門 保育園・幼稚園の部
中学校の部
～大学・一般の部

所在地 茨城県つくば市

☆☆☆

―目的・特徴等

災害時には日頃の備えや地域での人間関係が威力を発揮することが多くの場で言われています。

また茨城では平成23年に全国に先駆けて、地域課題を多様な関係者（マルチステークホルダー）が集まり話し合い、解決を目指す地域円卓会議が行われました。

本プランでは地域円卓会議方式で、災害時の乳幼児、高齢者やアレルギーを持つ方でも安心できるレシピ開発を試みます。危機の時だからこそ、充実した食環境が維持することが大切です。

―団体紹介

当法人は自然と人間、人と人との絆を大切にできる持続可能な社会を、地域力を活かしたコミュニティソリューションを通じて実現することを目的に活動しています。

活動は農、食、絆をキーワードに、採算性が悪いが景観や生態系的に貴重な立地の耕作放棄地を環境教育や農体験を通じて再生する活動、前者を含め地域資源を用いて、特に若中年の無職者や障がい者の社会起業を支援するローカルエコビジネス勉強会、高齢者等の地域での孤立を防ぐ「居場所づくり」事業等を実施しています。笑って生きて、笑って見送られることができる地域社会を目指します。

【4】埼玉県狭山市立柏原小学校

プラン名 柏原の防災リーダーになろう

応募部門 小学校低学年の部
～小学校低学年の部

所在地 埼玉県狭山市

☆☆☆

―目的・特徴等

立川断層帯による地震及び東京湾北部地震、入間川氾濫による水害、これらの複合災害等を想定し、児童の災害対応能力を高めることを目的としています。地域の防災について、専門家の知見から学ぶ講演会、フィールドワークから地域の実状をつかみ防災行動に活かすためのマップづくりを計画しています。多様な条件設定での防災（避難）訓練を実施することにより、児童及び教職員の災害対応能力の向上を目指しています。

―団体紹介

本校は、明治８年１月創立、埼玉県の南西部に位置する狭山市の北部にあります。荒川の支流である入間川右岸に校区が広がっています。児童の居住域は、川に隣接する比較的土地の低い地域と河岸段丘上の地域です。学校が正に地域の中心にあり、地域に支えられ地域とともに教育活動を進めている学校です。児童数６００名弱で、児童は明るく元気で素直、学習や運動に一生懸命に取り組んでおり、成果をあげています。全校児童が縦割り集団で活動する『風の子まつり』は、保護者・地域の方の参画もあり、児童が楽しみにしている行事です。

【5】尼崎市立城内高等学校

プラン名　地域に役立つ人になろう
（夜間高校ができる地域防災を考える）

応募部門　高等学校の部　　**所在地**　兵庫県尼崎市

☆☆☆

―目的・特徴等

防災に対する知識を深めると同時に、定時制高校として、夜間の災害時に地域のために力を発揮できる生徒の育成を目指す。そのために、地域と連携して避難訓練を実施し、地域の独居高齢者の避難援助をしたいと考えている。平成２４年度には一部の地域の独居高齢者調査を行った。今年度は、調査範囲を広げ、支援が必要な高齢者の資料を作成し、生徒がその場所まで避難援助に向かえるようにしたい。

―団体紹介

本校は、１５歳から７０歳代の生徒が在籍する定時制高校である。平成２４年度は東日本大震災の募金活動を通じて気仙沼の定時制高校と交流した。また、兵庫県防災ジュニアリーダー育成事業の活動に参加し、生徒が主体的に防災意識を高めるための活動を行ってきた。１月１７日には阪神大震災の追悼行事も実施しているが、今後は、大半の生徒が阪神大震災を経験していないため、大震災の教訓を風化させないよう様々な観点で防災教育を行い、命の大切さや思いやりの心を育んでいきたい。さらに、災害時に地域の役に立てるような生徒の育成を目指している。

【6】兵庫県立神戸聴覚特別支援学校

プラン名　聴覚障害のある児童生徒の防災を考える

応募部門　保育園・幼稚園の部
～大学・一般の部　　**所在地**　兵庫県神戸市

☆☆☆

―目的・特徴等

本校は昨年度より「命の教育」を重点目標の一つとしています。その一環として、「防災教育」にも全校をあげて積極的に取り組んでいます。聴覚に障害を持つ児童生徒が、災害時にいかに自分の命を守るかということを大きな課題としています。防災訓練の実施においても、ただやるのではなく、悲観的な状況を想定し、現実味のある訓練を計画しています。また、地域の方々や聴覚障害者にも訓練の参加を呼び掛け、その連携を深めていきたいと考えています。

―団体紹介

本校は、神戸市垂水区に位置し、豊かな自然環境のもと、聴覚に障害を持つ幼児児童生徒、約１１０名が学ぶ聴覚特別支援学校です。前身は昭和６年設立の兵庫県立聾唖学校、平成１９年に神戸聴覚特別支援学校と名称を変え、来年度創立８２年目を迎えます。手話や口話等のコミュニケーションツールを用い、障害による学習及び生活上の困難を改善又は克服して、社会的に自立した人格の育成を教育目標としています。来年度、日本初となるコミュニケーションデザイン科を開講します。

【7】竜南いのち守り隊

プラン名 環境といのちを守る街づくり２０１３

応募部門 中学校の部　　**所在地** 愛知岡崎市

☆☆☆

―目的・特徴等

震災後の生徒の「防災意識」の高まりは感じるが、十分な行動化へは至っていない。そこで本プランではまず、主体的に学びに取り組むことができるよう、体験的な学びの機会を充実させ、生徒に「防災知識」を深めさせたい。そして、得た防災知識を生かして、日常生活の中で「防災行動」をとることができるようにしたいと考えている。

そのために、行政機関、専門家との連携を充実させ、最後に学びの発信の場を設けるようにしたい。

―団体紹介

本団体は竜南中学校の全生徒・職員から組織され、総勢６５０人程度となる予定である。その核となるのは中学校３年生約２００人であり、１・２年生の時には環境教育を中心に学習を進めてきた。この「環境を守る姿勢」と、防災学習によって得る「いのちを大切にする姿勢」を目標の中心に据え、学習活動に取り組んでいる。学習の成果は、文化祭などの行事を通して地域へも広がりを見せている。

将来、生徒自身が社会に出た際に、持続可能な社会の実現をめざし、「環境といのちを守る」ことのできる社会人の基礎の育成をしたいと考えている。

【8】兜町町会

プラン名 兜町　地域防災連携

応募部門 大学・一般の部　　**所在地** 東京都中央区

☆☆☆

―目的・特徴等

中央区日本橋兜町地区内における、企業・商店・住民間の「共助」に関する取り組みを推進するものである。

推進に向け、町内に専門家を呼んでの講演会や、地区内関係者の意見交換会を行う。防災意識向上のための啓蒙活動はもちろん、将来的には合同防災訓練や共助協定等の議論に進めていく予定である。

―団体紹介

兜町町会は企業・商店・住民で組織された町会組織です。日本橋兜町という地区特性上、地区内人口は商店・住民と比較して、企業人口が大多数を占めております。その地区特性に適した防災システムを構築すべきと考え、昨年に防災組織を立ち上げ、本チャレンジプランに参加することと致しました。先ず、企業・商店・住民間のコミュニケーションが活発になるよう、町会にて橋渡しを行っているところでございます。

宜しくお願い致します。

【9】秦野市教育研究所　幼小中一貫防災教育研究部会

プラン名　防災教育指導計画と防災プログラムの作成と実践

応募部門　保育園・幼稚園の部
～中学校の部、
大学・一般の部

所在地　神奈川県秦野市

☆☆☆

―目的・特徴等

平成24年度に作成した幼小中一貫防災教育実践プログラム集について、実際の実践による検証及び専門家の目からの指摘などを行う中で、プログラムが実際有効なものなのかどうかの検証が不足しています。そこで、実際に実践することによる検証と専門家や先進的に取り組んでいる学校等の方などにプログラムや指導計画などを確認していただき、助言などをいただく中でさらに有効なプログラム集として完成させいきたいと考えています。

―団体紹介

秦野市教育研究所は、喫緊の教育課題や教育に関する諸問題について、調査研究部会を設置し、将来的な教育像を創造していくため、実証的・論理的な研究を推進しています。例年、研究成果については研究紀要として発行するとともに、研究発表会や各教育課題についての研修会を開催し、その中で周知を図ってきています。今後も防災教育のような緊急な対応が迫られるものを含め、教職員や地域、保護者等のニーズに応じた研究を進め、教職員の資質向上や教育の質の向上を図るための研究を進めてまいります。

【10】千葉県立銚子高等学校

プラン名　銚子ジオパークを利用した防災を考える

応募部門　高等学校の部

所在地　千葉県銚子市

☆☆☆

―目的・特徴等

２０１２年９月に銚子市内４カ所がジオパークに認定され、今後観光資源としての活用が見込まれている。そこで、観光客（初めて訪れた人）をターゲットとした、高校生の視点に基づいた防災マップを作ることによって地域のハザードを知るきっかけ作りをする。

本プランで学んだことを銚子市の防災に関する街づくりに提言することによって高校生がどのように地域に貢献できるかを知る。

―団体紹介

千葉県立銚子高等学校は、明治４４年銚子実科高等女学校として創立され、以来地域に貢献できる人材を育成してきた女子校でした。

平成１９年度に、男女共学となり、新しい歴史を刻み始めました。

また、平成２６年度からは教育課程に「防災を学ぶ」（仮称）を位置づけ防災を教科として学習します。

2012年度 審査委員会

委員長	渡邉 正樹	東京学芸大学教育学部 教授／日本安全教育学会 理事長
委 員	安藤 雄太	法政大学現代福祉学部兼任講師
委 員	小澤 良一	全国連合小学校長会 対策部長／渋谷区立富谷小学校 校長
委 員	久保田 伸	東日本電信電話株式会社 ネットワーク事業推進本部 ｻｰﾋﾞｽ運営部 災害対策室長
委 員	佐々木 克樹	内閣府大臣官房審議官（防災担当）
委 員	重川 希志依	富士常葉大学大学院 環境防災研究科 教授
委 員	清水 善久	東京ガス株式会社 導管ネットワーク本部 防災・供給部 部長兼供給指令室長
委 員	庄子 憲義	東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 常務取締役
委 員	戸田 芳雄	東京女子体育大学 教授
委 員	林 春男	京都大学防災研究所 巨大災害研究センター 教授
委 員	藤吉 洋一郎	大妻女子大学 文学部 コミュニケーション文化学科 教授
委 員	山口 博	東京電力株式会社 常務取締役・電力流通本部 副本部長
委 員	米田 徹	日本ジオパークネットワーク 会長／新潟県 糸魚川市長

（平成25年2月9日現在、50音順、敬称略）

MEMO

防災教育チャレンジプラン募集の御案内

1. 募集の概要

防災教育チャレンジプランでは、全国で取り組まれつつある防災教育の場の拡大や質の向上に役立つ共通の資産をつくることを目的に、新しいチャレンジをサポートいたします。そのプランの準備・実践に当たって発生する経費を支援し、実現に向けて防災教育チャレンジプランアドバイザーが伺うなどして相談などの支援を行います。

応募の中から選ばれたプランは、活動計画について前年度の活動報告会（最終報告会）で発表、さらに1年間実践した結果を、交流フォーラム（中間報告会）と活動報告会（最終報告会）で成果を発表していただきます。※入門枠は発表不要

活動報告会（最終報告会）においては、優秀な実践活動に対して防災教育大賞、防災教育優秀賞、防災教育特別賞を授与いたします。また、皆さんのチャレンジプランの成果はホームページなどで広く公開いたします。

● 特別枠「ジオパーク」について

2013年度募集では、「ジオパーク」に関する取り組みを特別枠として募集いたしました。

※サポート内容・表彰や応募資格、応募方法は別途リーフレットを参照ください。

● 入門枠「はじめの一歩」について

2013年度募集では、初めて防災教育に取り組まれる方を対象とした入門枠「はじめの一歩」を設けました。

※入門枠についての詳細はホームページ内の募集要項（入門枠）をご覧下さい。

サポート内容	一般枠	■プランの実践にかかる経費の提供／上限 30 万円（査定による） ※活動・予算計画書の提出及び団体名義の口座が必要となります。 ■交流フォーラム（中間報告会）・活動報告会（最終報告会）発表者への交通・宿泊費の支給。（1名分×3 回分） ■プランの実現に向けて、実行委員会が認定する防災教育チャレンジプランアドバイザーが助言や現地指導等の支援を行います。
	入門枠	■プランの実践にかかる経費の提供／上限 5 万円（査定による） ※活動・予算計画書の提出及び団体名義の口座が必要となります。 ■プランの実現に向けて、実行委員会が認定する防災教育チャレンジプランアドバイザーが助言や現地指導等の支援を行います。
表彰	一般枠	■活動プロセス及び成果に対して審査を行い、優秀な実践活動に対して、防災教育大賞・防災教育優秀賞・防災教育特別賞を決定し、 表彰状と盾を授与いたします。 ■防災教育チャレンジプラン「サポーター」として認定いたします。
	入門枠	■活動プロセス及び成果に対して評価し、優秀な実践活動について表彰いたします。

2. 応募資格

● 防災教育を一層充実させたいと考えている教育・社会福祉施設（保育施設・幼稚園・学校等）、教育委員会、NPO、地域団体（民間事業所、各種団体、行政機関）、個人等

● 採用された場合は、都内にて開催予定の実践団体決定会、中間報告会、最終報告会の計3回の会合に出席できること。（一般枠のみ）

3. 応募部門（プランの対象別）

A. 保育園・幼稚園の部　B. 小学校低学年の部　C. 小学校高学年の部
D. 中学校の部　E. 高等学校の部　F. 大学・一般の部

4. 募集期間

毎年9月頃～12月頃に募集。詳細は、ホームページ上でお知らせいたします。

防災教育チャレンジプラン

■　防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局
E-mail：cpinfo2865@bosai-study.net

■　防災教育チャレンジプランホームページ
http://www.bosai-study.net/

※E-mail アドレスは、予告なく変更することがあります。
最新情報は、ホームページでご確認ください。